

法

冊

方此

冊

二

一

一

學
放

縣
中

滋
養

發行

國會汎論

卷上

年五月

購書 日入	冊 號	種 別	前 冊 號
月	號	一	一
日	號	號	號

明治三十三年五月發行

獨逸法律博士
ブルンチユリー氏原著

國會汎論

石津可輔譯
讚井逸三校

西氏藏版





情原未下

而始由始

蒲生弘
寄附

上則
以

元
世如
世如





今上即位元年三月十四日誓曰廣
興會議萬機決公論越八年四月十
四日又詔曰漸立立憲之政體與汝
衆庶賴其慶勿或輕乎進急乎為鳴
呼盛哉維新之政所以國是定于上

而民情伸于下也頃日讚并逸三校
石津可輔所譯獨乙法律博士舜理
年氏國會汎論徵序於余余受而讀
之措辭簡明不加虛飾不解洋書如
余者亦可以通其事理而其說則皆
徵諸歐米諸國實際取捨折衷得失

相較由世理與人情漸進而底其極
猶水就下沛然之勢不可復禦也與
我
聖天子所期自同其歸矣若夫輕進
急為激而行之則非此書之本旨也
博士夙負經綸之才其所撰述盡莫

非有用而此書與國法汎論蓋其最也國法汎論既已行于世此書一出則連鑣並馳庶乎可以補贊之聖
沼進入文化之域矣

明治十三歲次庚辰五月

蒲生弘撰



緒言

一此書ハ瑞西國人法律博士當時獨逸國ハイデルブルグ（フ）府
大學校教官「ブルンナ、リ」氏ノ著述原名「チー、タルガーチ、デ
ルケセツ、グーアング、ウント、ダス、ゲセツ、即チ立法及ヒ法律
機關ト題スル書中並ニ「スライツヒユルゲルイム、ニツケレ
ン、ヤンチ」即チ國士論ト名クル書中ヨリ翻譯スルモノトス
蓋シ歐洲各國代議府ノ起原沿革ヨリ兩院ノ設置方法議員
ノ撰舉分限其他憲法制定ノ原則ニ關シテ利害得失ヲ論悉
スル此篇ノ右ニ出ルモノナシテ其論スル所專ラ理論
ニ偏依セス事述ニ拘泥セス古今ノ變遷ニ精考シ各國ノ異
同ニ參酌シ通議汎論能ク其衷ヲ得タルモノナレハ今日我
國ニ在テ國會ノ設立ヲ冀望スル人士ニシテ宜シク此書ヲ

一讀セハ進テ過激ニ馳セ退テ固陋ニ安スソスルカ如キ弊害ヲ除去シ衷心大ヒニ發悟開明スル所アリ將サニ其冀望スル所ノ目的ヲ達セントスルニ於テ之カ裨益ヲ與ル豈ニ止ラ淺少ナリト謂フヤ是余カ淺學短才ヲ願リニス蓄テ斯譯ニ從事セシ所以ンナリ

一「アルンテ」リ「民學園」富贈著書頗ル多シト雖也就中此書ノ如キハ氏自ラ稱シテ其精神ヲ注ク所ナリトスルモノナリ孔丘有云知者者其唯春秋乎ト余氏カ斯書ニ於ケル亦云發刊已來校訂增補既ニ數次ノ改板ヲ成シ茲ニ譯スル所ノ原本ハ今チ距ルコト五年前即チ西曆一千八百七十六年刊行ノ第五板ニ係リ況ク世人ノ信用ヲ得テ爲メニ氏ノ聲譽ヲシテ字内ニ結著セシメタルモノナリ

一文藝ハ美テ以テ首トシ法學ハ正テ以テ要トス此篇素ヨリ法科ニ屬スルノ書ニシテ論理自ラ深奧ニ涉ルカ故ニ反覆熟考漸ヤシ其意義ヲ正解シ之ヲ簡易ニ譯述スルモノナレハ行文ノ間或ヒハ通暢爽快ヲ缺クノ議アルコト免カレサル所アルモ亦勉メテ其原文ノ韻旨ヲ失ハサラソカ爲メ敢テ文辭ノ虛華ヲ退ハサレハ讀者頗ヒニ文藝一様ノ看ナ做シ行文措辭ノ拙劣ヲ尤ムルコト勿レ

一論中幾世紀ト記スルモノハ年代ヲ示スニ係リ即チ紀元後一百年チ一世紀トシ二百年チ二世紀トス以下之ニ準知スヘシ

一原註ハ通例(括弧)ヲ設ケ其長文ニ係ルモノハ(一)(二)等ノ符號ヲ用ヒテ本文ノ一段落ヲ了リタル後チニ置キ譯者ノ註

四 解ハ「愚按」ノ字ヲ莫ス

一 原語ノ旁側ニ一形ナル單柱ヲ右ニ置クモノハ名氏ニシテ左ニスルモノハ物名及ヒ一切ノ名稱ナリ又一ナル雙柱ヲ右ニスルハ土地國名ニシテ左ニスルハ官職爵位尊稱及ヒ官衙ノ名稱等ナリ但シ一目シテ瞭然ナルモノハ故サラニ單雙柱ヲ贊セス看官之ヲ諒セヨ

明治十三年五月

譯者識

國會汎論編次

上卷

第壹款 代議憲法興起史

(一) フランス國々會

(二) 英國巴理門

第二款 歐洲陸地諸國種族政ノ起原

第三款 種族政憲法ト民政ノ別

第四款 立法體ノ組織

第五款 民權議院即チ下議院構成

第六款 元老院或ハ上議院構成

下卷

一 第七款 (ア) 立法全體ノ權

二 第八款 (七)立法體諸部ノ權

第九款 (一)國王ノ特權

第十款 (二)再院ノ權

第十一款 法律(壹)各法律分類

第十二款 (二)法律ヲ制定スルノ體式

第十三款 法律能力ノ區域

附錄國士論

國士論

明治三十三年五月發行

獨逸法律博士
ブルンチュリー氏原著

國會汎論

石津可輔譯
讚井逸三校

西氏藏版

正印三十三前

御批

國

會

氏

命

西九

士

情原未心

世

而制由控

上則取の

以の

元聖院副法長

世如信修年高乃



今上即位元年三月十四日誓曰廣
興會議萬機決公論越八年四月十
四日又詔曰漸立立憲之政體與汝
衆庶賴其慶勿或輕乎進急乎為鳴
呼盛哉維新之政所以國是定于上



Handwritten text in cursive script, likely a signature or a note related to the printed text on the left. The characters are fluid and connected, characteristic of cursive calligraphy.



而民情伸于下也頃日讚井逸三校
石津可輔所譯獨乙法律博士舞理
牟氏國會汎論徵序於余余受而讀
之措辭簡明不加虛飾不解洋書如
余者亦可以通其事理而其說則皆
徵諸歐米諸國實際取捨折衷得失

相較由世理與人情漸進而底其極
猶水就下沛然之勢不可復禦也與
我
聖天子所期自同其歸矣若夫輕進
急為激而行之則非此書之本旨也
博士夙負經綸之才其所撰述盡莫

非有用而此書與國法汎論蓋其最
也國法汎論既已行于世此書一出
則連鑣並馳庶乎可以補贊入聖
沼進入文化之域矣

明治十三歲次庚辰五月

蒲生弘撰



緒言

一 此書ハ瑞西國人法律博士當時獨逸國ハイデルブルグ府
大學校教官「ブルンナリ」氏ノ著述原名「ナリ、ナルガイテ、デ
ルケセツ、グーアング、ウント、ダス、グセツ」即チ立法及ヒ法律
機關ト題スル書中並ニ「スタートツピユルグルイム、エツグレ
ン、ヤンテ」即チ國士論ト名ケル書中ヨリ翻譯スルモノトス
蓋シ歐洲各國代議府ノ起原沿革ヨリ兩院ノ設置方法議員
ノ撰舉分限其他憲法制定ノ原則ニ關シテ利害得失ヲ論悉
スル此篇ノ右ニ出ルモノナシ而シテ其論スル所專ツ理論
ニ俛依セス事迹ニ拘泥セス古今ノ變遷ニ稽考セ各國ノ異
同ニ參酌シ通議汎論能ク其真ヲ得タルモノナレハ今日我
國ニ在テ國會ノ設立ヲ冀望スル人士ニヒテ宜シク此書ヲ

一讀セハ進テ過激ニ馳セ退テ固陋ニ安スンスルカ如キ弊害ヲ除去シ衷心大ヒニ發悟開明スル所アリ將キニ其冀望スル所ノ目的ヲ達セントスルニ於テ之カ裨益ヲ與ル豈ニ止ラ淺少ナリト謂フヤ是余カ淺學短才ヲ顧リニス雷ヲ斯譯ニ從事セシ所以ンナリ

一「アルンナリ」氏學識富贍著書頗ル多シト雖ニ就中此書ノ如キハ氏自ラ稱シテ其精神ヲ注ク所ナリトスルモノナリ孔丘有云知吾者其唯春秋乎ト余氏カ斯書ニ於ケル亦云發刊已來校訂増補既ニ數次ノ改板ヲ成シ越ニ譯スル所ノ原本ハ今ヲ距ルテ五年前即チ西曆一千八百七十六年刊行ノ第五板ニ係リ汎ク世人ノ信用ヲ得テ爲メニ氏ノ滄學ヲシテ字内ニ赫著セシノナルモノナリ

一文藝ハ美ヲ以テ首トシ法學ハ正ヲ以テ要トス此篇素ニリ法科ニ屬スルノ書ニシテ論理自ラ深奧ニ涉ルカ故ニ反覆熟考漸ヤシ其意義ヲ正解シ之ヲ簡易ニ譯述スルモノナレハ行文ノ間或ヒハ通暢爽快ヲ缺クノ譏アルコト免カレサル所アルモ亦勉メテ其原文ノ頤旨ヲ失ハサラソカ爲メ敢テ文辭ノ虛華ヲ追ハキレハ讀者類ヒニ文藝一様ノ看テ做シ行文措辭ノ拙劣ヲ尤ムルコト勿レ

一論中幾世紀ト記スルモノハ年代ヲ示スニ係リ即チ紀元後一百年ヲ一世紀トシ二百年ヲ二世紀トス以下之ニ準知スヘシ

一原註ハ通例(括弧)ヲ設ケ其長文ニ係ルモノハ(一)(二)等ノ符號ヲ用ヒテ本文ノ一段落ヲ了リタル後ニ置キ譯者ノ註

四 解ハ愚按ノ字ヲ曼ス

一原語ノ旁側ニ一形ナル單柱ヲ右ニ置シモノハ名氏ニシテ左ニスルモノハ物名及ヒ一切ノ名稱ナリ又一ナル雙柱ヲ右ニスルハ土地國名ニシテ左ニスルハ官職爵位尊稱及ヒ官衙ノ名稱等ナリ但シ一目シテ瞭然ナルモノハ故サラニ單雙柱ヲ貴ヒス看官之ヲ諒セヨ

明治十三年五月

譯者識

國會汎論編次

上卷

第壹款 代議憲法興起史

(一) フランソク國々會

(二) 英國巴理門

第二款 歐洲陸地諸國種族政ノ起原

第三款 種族政憲法ト民政ノ別

第四款 立法體ノ組織

第五款 民撰議院即チ下議院構成

第六款 元老院或ハ上議院構成

下卷

一 第七款 (ア)立法全體ノ權

二 第八款 (一)立法體諸部ノ權

第九款 (一)國王ノ特權

第十款 (二)兩院ノ權

第十一款 法律(壹)各法律分類

第十二款 (二)法律ヲ制定スルノ體式

第十三款 法律能力ノ區域

附錄國士論

瑞西國人ブルンテユリ^一氏著
原名 立法權 國會汎論上卷

石津可輔 譯

續井逸三 校

第壹款 代議憲法興起史

(一) フランスノ國會

(二) 英國巴理門

往昔草昧ノ世ニ在テ未開ノ人民相集合シテ民會ヲ起立シ
爾來幾多ノ沿革ヲ歷テ今日ノ代議制ヲ設置シ稍々完全ノ
現狀ヲ見ルニ至ルマデ爾ヲ聞スルニ千餘年其間人ノ精神
ヲ勞スル亦至レルト謂フヘシ然リ而シテ今日代議ノ制ト
雖^レ猶^レ未^レ完全無缺ニシテ善美ヲ盡セリト謂フ可クヤ

(一) 往昔フランク王国ノ國會ハ其概要ナル事件ニ關シテハ羅馬中央議院シニヤトコナトノ編制ニ及ハサルモノアリ○種々ノ階級及ヒ門地ヲ以テ國會ニ參與スルノ方法ニ於テハ羅馬人ト其體裁ヲ等フスルト雖モ實際之カ秩序ノ確實ナルヲト議事及議決ノ方法ニ至リテハ概々テ羅馬人ニ一着ヲ讓ル所ナリ且ツフランク國々會ハ其實唯リ僧俗ノ精神ノニ協力シテ之ヲ實施スルニ過キサレハ要スルニ一個ノ貴族政治ナルノニ○其他ノ人民ニ至テハ其議事ニ參與スルヲ基ハク罕ニシテ通例唯ニ彼僧俗精神カ決議セタル所ノ法律ニ服従スルニ過キサリヤ然リト雖モ此國ノ編制中痛ク尊崇スベキ一事アリ爲ニ一大進歩ヲナセリ抑往昔ノ民會ト稱

スル者ハ一部府ノ國士ヨリ成立セザルモノニシテ國家中央集權ノ在ル所ト認メタリ而シテ此國會ハ在テハ吾ラス廣ク地方ニ散在シテ其地方ヲ支配スル所ノ人民ヲ基本トシ此會ニ從エモノハ正ニ此人民中ノ首領ニヤテ衆庶ノ信任ヲ蒙リ且ツ各地方ニ於テ威權ヲ有スル者ヲ召集スルノ制ナリ

○春季ノ大會ニ於テハ所謂ル會員タル首領ハ各自其從者ヲ率カニ以テ會場ニ莅メハ則チ其從者ハ勿論其他數多ノ自由軍人等儼然此會場ニ陪列シ以テ會員ノ榮華ト威權トヲ強メタリ

○此貴族政治ノ下ニ支配モラル、所ノ國民ハ亦各其議會中ニ於テ吾人ノ嚮導者並ニ代理者アリト推認セリ

○セオロレス最高等人民部ハ國王ヲ擁戴シ國王附屬議員ト與ニ庶事ヲ諮議ス而シテ該人民部ノ外特有テ高等人民部モ亦其決議ニ參與スルヲアレハ通例國王ト最高等人民部ト相商議シテ決定シタルモノヲ與カリ聞クヲ以テ満足セサルヲ得ス降ツテ此會ニ陪列スルヲ得ル他一部ノ國民ニ至テハ部ヲ其首領ノ議定シタル所ニ服従スルニ止マルモノトス

○此國會ノ體裁及ヒ此國會ニ於テ貴族政ノ盛ゾニ行ハレタル起源ハ往昔ゲルマニア國會ニ流傳シ又此ノガルリヤ國會ハタルナヤ國ノ貴族政ニ於テトロキト及リツアル(已貴族ノ名稱)ナル者高位地ヲ占メタルヲ有リシニ根據スル乎ノ疑ヒナキニ非ヤレト願フニ此編制ハ日耳曼法ニ由來スト

謂フヲ以テ當レリトス風トニ獨逸各國ニ於テ貴族政治ヲ尊崇シテ甚ハシ隆盛ヲ致シタルヲアリシニ因テ之ヲ微知シ得ヘケレハナリ(タテラス兵ノ言ニ日耳曼大古ノ憲法中ニ貴族政治ヲ以テ甚ハシ貴重ノ地ニ置キテリト)

(二) 代議編制ニ於テ尙ホ一層善真ノ體裁ヲ成シタルハ英國ヲ以テ之カ嚆矢ト爲ス故ニ英國巴理門史ニ就テ其開進ノ度ヲ示スヘシ

アングロサクソン國ノ(賢士會議)愚按スルニアソケル、リク割據其國ヲ七分(毎)ト稱スルモノハノルマンヤリ諸王ノ國此會議ヲ設ケタリト稱スルモノハノルマンヤリ諸王ノ代ニ際シ第十三世紀ノ初期ニ至ルマテ漸次ニ之ヲ改良シテ終ニ大政權ヲ有スル國民ノ一大會議タル體裁ヲ作セリ

○此大會議ト雖ト當時猶ホ封建ノ制ニ根據スルモノニシ

タ臣下ノ職兵式及朝廷ノ大禮ノ如キモ等シテ其基ヲ此ニ取ラサルハナシ○千二百十五年ヨハン第二世大典ニ依リテ更ニ國王直轄ノ臣ヲ舉テ諸會ニ臨ムモノトセリ而シテ會議ヲ開クニ方ツテハ「大僧正トウシヤウシヤウ」トウシヤウシヤウ「僧正ソウシヤウシヤウ」ソウシヤウシヤウ「寺院管長ソウインカンチヤウ」ソウインカンチヤウ「伯爵ハクシヤウ」及ヒ「大男爵トウナウバウシヤウ」ノ如キ精神家ハ各人コトニ國王ノ親簡ニ由ラテ之レヲ召喚シ其他ノ王臣ハ之レニ反シ惣テ國王ノ「ウキーンツクライトラエツ」ウキーンツクライトラエツ及ヒ「奉行フコウギョウ」フコウギョウ「國分クニブン」クニブン「四分シフブン」シフブン「每置ク」ヨリ一緒ニ禮儀スルノ例ナリ

爾後第三世紀ニ際シテ貴族ト國王ハキソリヒ第三世トノ間ニ紛糾ヲ生シ其結果終ニ巴理門ハ若シク之カ區域ヲ廣潤ニシ又稍々封建政治ノ藩屏ヲ離レ殆ント國民院クニミンインタルノ跡裁々具備スル迄ニ上進セリ○英國巴理門ノ開進ヲ致シ

タル所以ノ要領ヲ抄シ左ニ明示スヘシ

第一 高僧カウシヤウシヤウノ外特ニ教會ニ關係スル諸事アルハ下等僧

侶モ亦此會議ニ參與スルコトヲ得就中此僧侶ハ各々其部内

ヨリ全權代理者二名ヲ選舉シ以テ巴理門ニ出サシムルノ

制ナリ是ヲ以テ僧侶ハ一種族タルノ性質ヲナシ初メハ巴

理門中一個ノ部分ヲ做シ長々僧俗ヲ異ニセシコアリ○然

リト雖も後チハ孤コリコ「普救主ソウキウシュ」ソウキウシュ國王ヨリ命セラレタル寺院

長ノ如キモノ、ニ上等貴族ト共ニ一貴族院ニ集會スルノ

區ヲ熱成セ而テ多數說ヲ取ルニ際シテモ位地ト人物ヲ以

テ之レガ殊別ヲ立ツル等ノコトナキニ至レリ

第二 初メ「伯爵ハクシヤウ」ハクシヤウ及「大男爵トウナウバウシヤウ」トウナウバウシヤウ其他ノ「タイヒスリツタル」

「愚按オウケン」オウケンノ一種族ト共ニ一會議院ニ會集セシモノナルガ其

已前ニ在テハ國王直接召喚ノ精神ハ其他ノモノヨリ威權盛ニシテ且ツ貴重ナル「パロン」族此巴理門ノ約束ニテ「コロ」ス「パロン」ハ「抄ナシ」モ十三テ所ノリツタル領時ノ一リツタル領凡三百「モ」ト有スルモノニ限ルノ位地ヲ占メ會議上一層ノ高權力ヲ有シ往々該精神ノニ議事ヲ專ラニセザラリ○「パロン」ハ「抄ナシ」内閣ナル者アツタ此高貴族政ノ中必チ成セリ而シテ此内閣ハ宮内「按スルニ宮内ト稱スルモノハ當時ニ在リ」テハ今ノ太政官ト宮内省トチ混同シタル「部、兵部、司法部、及大藏部、ノ長官タル國家官吏ヲ含蓄セシルモノナリ」○第十三世紀ニ際セテ高貴族政トリツタル、セヤ「フト」「愚」按スルニ一地方ニ居ル所ノ貴族ノ間ク著シク差別ヲ生セリ

第三 リツタル、シヤ「フト」ハ右ノ如ク高貴族政トノ差別

チ倣シ漸次ニ痛ク其社會ノ境域ヲ續テズリ○諸州ニ於テ王臣ノ外俵伯及紳士ノ陪臣ニシテ或ハ王臣ヨリ素封ノモノアリ○今ヤ農時ノ制ヲ改メ寡少ノ王臣ヲシテ一掃ニ巴理門ニ召集スルヲ停止セリ然レハ出席ノ員數ハ舊來ノ大數ヲ要望スルモノ、如シ是ニ於テ乎リツタルセヤ「フト」ノ代議士法ヲ設ケテ毎州ヨリ二名ノリツタル族ヲ撰舉シ之レガ代理者ニ充ツルヲトナレリ○勅換リ星移リリツタル族ノ風チセテ次第ニ他ノ種族ニ傳播シ州撰「按スルニ州撰トハ每州ヨリ被撰者」ニ就テハ租稅其他國家裨益上ニ大關係ヲ有スル所ルノ拜領地モ亦之レニ與カルヲ得ルニ至リシハ理勢ノ然ラシムル所固ヨリ當然ナリトス○此變遷ハ第十三世紀ノ央ヨリ起リテ終ニ貴重ナル占有地

者ノ撰舉代議士法ハ巴理門固有ノ一部分タル分限ヲ有スルニ至レリ○而テ此變遷ニ因テ占有地者代議タル一性質ヲナセタルノモ止マラス尙キ之レカ範圍ヲ廣シテ乃チ占有地ヨリ規則正シク毎年ノ叙入ヲ得ル所ノ地主ニシテ其叙入高初ノハ四十ポンド限リトシ後チ復テ四十磅ヲ得ルモノ迄ヲ撰任シ其後千八百三十二年ノ改革令ニ由テ占有地或ハ借有地ヨリ十磅ノ叙入ヲ得ル所ノ地主及ヒ有期借地人ニシテ尙キ右ノ地主ヨリ多額ノ叙入ヲ得ルモノマケモ之カ撰舉權ヲ有スルニ至レリ

第四 今ヤ市民及城邑民ノ代議法部ニ由テ爰ニ全ク一新ノ基礎ヲ建テヨリ○當初伯爵シモン、フオソ、モントキル、氏己レノ威權ヲ赫張セシヨテ欲シ當時捕虜タリシ所ノ

國王ニ代リ千二百六十年市府民及城邑民ノ代議士ヲ巴理門ニ召喚セリ○蓋シ茲ニハ國王ヨリ王室ノ用金ヲ徵募セシトスルコトアルキハ王自カラ各市府民ヲ召シテ商議セシヨアリ倫敦ニ於テハ千二百十五年大典中之レカ明文ヲ載セタリ○然レニ國王タル身分アル者ノ代議士會ヲ設置セシハ此時ヲ以テ濫觴トシ、エドワルト王第一世(自千二百七十一年至千三百七年)ノ代ニ至ツテ此編制法ヲ確定セリ

當初ハ代議士ノ位地ヲ分チ五港ノ代議士(男爵)ヨリ出ス面テ一級ノ國士ニ非スヲ第一列トシ市府ヨリ出スモノヲ第二列トシ城邑ヨリ出スモノヲ第三列トセリ如斯城邑民ヲシテ最下等ノ位地ニ置キタルモノハ他ナシ市民ノ富貴素ヨリ城邑民ノ及ハサル所ナルニ因リ自ラ其位地ヲ市府民

ニ讓レハナリ○然リト雖ハ後年ニ至テ此種別ヲ廢シ各列
共ニ第三列ト合併セリ而テ此第三列タル城邑民ハ漸ク延
クテ愈々其概要ノ地位ヲ占メ終ニ巴理門ノ全體ニ於テ一
ノ新性質ヲ作セタリ○今ヤ共和政主義ノ模範法ニ由テ新
クニ設置シタル二部即チ「リツタル」部及「ドット」部及代議民
部ヲ以テ古來ヨリ勢ヲ逞セタル世襲貴族政ニ相對立スル
ノ制トナレリ

第五 此變革開始ハ終ニ下議院ノ組立ニ由テ權手不抜ノ
基ヲ起セリ○而テ「リツタル」部ノ地位ヲシテ或
ハ伯爵ノ部ニ合併セン乎若シハ一種特別ノ會議ヲ起サン
乎或ハ之レヲ國土ニ混加セン乎之レカ所置ニ至テ暫ク其
歸着スル所ヲナカリシカ「エドワルト」王第三世自千三百二

十七年至千三百七十七年ノ代ニ際セテ終ニ之ヲ國土ニ加
フルノ正規ヲ立テ而テ普通人民會即チ下院ヲシテ貴族院
即チ上院ニ並立スルコト定メタリ○然リ而テ千二百九十
九年以降オキスホルド及ガムブリツテ「大學校」ノ代議士召
集スルコトナレリ○然レニ反ツテ下等僧侶ノ代議士法ニ
至ツテハ後チ漸ク之レヲ實施セサルモノ、如ク
斯ノ如ク區別スル所ノ兩院ヲ以テ成立サタル巴理門ハ國
王之レカ長トナリ萬國ヲ裁定シ貴族及普通下貴族ノ利益
ヲ圖リ殊ニ「リツタル」部ト平民ト及「ドット」部ト交際
チ厚クセントスルノ意ヲ持メタリ是即チ英國編制法ノ初
メヨリ卓絶シテ竟ニ今世兩議院ヲ設置スル編制ノ模型ト
ナル所以トナリ

第六 各其位地ヲ異ニスルニ隨カヒ其利益ヲ殊ニスル等ノ事ニ反シテ全巴、理門ヲシテ國家公同ノ主義ニ基カシムルニ至ルマテハ蓋シ一朝一夕ノ事ニ非ス○英國ニ於テ此公同主義ニ違スル大進歩ヲ致セシハ、凡トニ第十三世紀ノ末期ニ在リ○然レニ當時猶未ク巴理門中六級(國王、貴僧及下等僧侶ノ代議士、貴族、リツタル族、市民、城邑民)ノ別ヲ存セリト雖ニ固有ノ風習ヲ却脱シテ國家公同主義ニ基キタルハ當時既ニ巴理門ノ約束ニ明記セマシ旨ニ依リ亦以テ之レヲ徹スルニ足ルヘシ○面テ事ヲ議スルニ方ツテ各々思想ヲ異ニシ論議百出觀スシテ議定スル能ハサルノ難時ニ際シテハ則チ巴理門ノ許諾ヲ經テ三名ノ國家官吏其撰舉人トナリ諸種族ヨリ先ツ二十五名ノ特別議員ヲ抽撰シテ一

會議ヲ開キ之レヲ決議セシム即チ、イビシオ、ブ二名及下等僧侶ノ代議士三名、ロクワ、フ族二名及バロン族三名、ハ、リツタル族五名、ニ市府民五名、ハ、城邑民五名是レナリ此廿五名中ノ者ハ各自十二名ヲ撰出シテ餘ノ十三名ヲ省キ此十二名ノ内ヨリ更ニ六名ヲ撰出シテ餘ノ六名ヲ省キ又シ此六名ヨリ三名ヲ精簡シテ餘ノ三名ヲ減スルヲ得ルモノトス此被撰ノ三名ハ國王ノ勅許ヲ得ルハ則チ更ニ其二名ヲ減シ殘ル壹名ヲセテ之カ終決ヲオサシムルヲアリ面テ此會議ニ於テ決定セタル事柄ハ全巴理門ニ於テ決議シタルモノト同一ノ効力アリトス

第七 素ト英國ロートルド貴族ナルモノハ必ラス管治スル所ノ土地ヲ簡スルヲ以テ其爵位ヲ有セシトナシ共後チ其領

壇ヲ管治スルノ制ヲ廢キ徒ラニ其虛符ヲ世襲スルノ制ニ
 變換セシ以來隨テ「ロートル院」(上議院)モ亦唯ク貴族院ナルノ
 名稱ノミナ有スルニ過キス斯時ニ當リ歐洲陸地ニ在ラノ
 巴理門ノ貴族ハ其管治スル所ノ領地ヲ有スル者ハ自ラ其
 顯爵ヲ保ツ所ノ封建ノ制ニ由リ英國「ロートル院」在時ノ如キ
 性質ヲ見ルニ至レリ○一ツハ革命ニ由リ一ツハ第十六世
 紀ニ際シテ廢寺ノ令ニ因リ貴僧侶ノ員數ヲ減スルヲ計カ
 ラス之レニ反シテ貴族ヘ往々國王ノ勅命ヲ以テ此族ニ列
 セ且ツ司法事務ニ關シ十二名ノ上等判事ヲ此族中ニ加入
 スル等ノ事ヲ行ヒタルヨリ該族ハ數多ノ人員ヲ増加セリ
 茲「格蘭國」(千七百〇七年)及「愛耳蘭國」(千八百零九年)ノ兩國ヲシテ
 英國ニ合併セシ以後「格蘭國」貴族ヨリ十六名僧侶ヨリ四

名ヲ撰出シ又「愛耳蘭國」貴族ヨリ廿八名ヲ撰出シテ上議院
 ニ加ヘ同シク該院ノ「ベイル」(一種ノ貴族)ト爲セリ
 是ヲ以テ該院ノ人員率々テ五分ノ四世襲ノ貴族ヨリ成立
 スルモノニシテ他ハ僧侶ノ官職ニ附帶セテ貴族爵ヲ受ケ
 タルモノ及ヒ撰出「ベイル」ヨリ之レヲ稱ヘリ○今爰ニ貴族
 ト稱スルモノハ往古ノ名ヲ存シテ其實ヲ異ニシ要スルニ
 最高級タル世襲ノ紳士ニ過キサルモノナリ
 第八 下議院ヲ尊敬シテ且ツ之レカ權力ノ隆盛ヲ致セシ
 ハ專ラ革命以降ニシテ殊ニ第十七世紀ノ一大變亂及ヒ人
 民ニ於テ自由ノ權ヲ得シカ爲メ「スツァートルト」家ヨリ出テ
 シル國王トノ取關以來ニ在リ○是ヨリ上議院ノ重力漸次
 下議院ニ移轉セリ○第十六世紀及ヒ第十七世紀ニ在テ宗

教ニ關係シテ激戰ヲナシ其餘勢ノ及ツ所終ニプロテスタ
 ント宗徒ニ限リ此議院ニ參スルヲ得タリ○而シテ特リ
 羅馬カトリックノ宗寺院ノ臣隸アリトステル（名信）ハ此限
 ニ非スハ千八百二十九年ニ至テ始メテベニエールトナリ或
 ハ平民トナツテ再ヒ巴理門ニ參與スルノ權ヲ有セリ
 ミニステル官ルツセルグレトヨリ布達シタル千八百三十
 二年ノ改革令ハ下議院會員法ニ對シテ大關係ヲ有セリ○
 市府及ヒ城邑ノ如何ニ由テ代議士派遣有無ノ制ヲ設ケラ
 レシヨリ以降頗ル之レカ狀態ヲ變セリ○此制ニ因ツテ
 殊ニ撰舉ノ大數ヲ減セタルモノハ城邑ニシテ今日ニ至リ
 巴理門ノ參與權ヲ省カレタルモノニ在テハ悉ク高貴族政
 ノ制御ヲ甘受スルコトナレリ若夫此制ヲ施スト無シハ則

ナ高貴族ノ働力ハ單ニ上議院内ニ止マリシノニ然リ而シ
 テ市府ニ在ツテハ爾來人民蕃殖セテ且ツ富有ナルト昔日
 ニ陪從シ或ハ別ニ一新市府ヲ開ク等ニテ假令巴理門ニ參
 與スル權ナキモ敢テ輕視スベカラケルノ形狀ニ立至レリ
 ○或ル一二ノ州郡ニ在ツテハ他ノ州郡ト比較スルニ甚ク
 著ルシキ不均一ノ差ヲ生シタルヨリ遂ニ復ク改正令ヲ發
 シテ五十六組撰舉法ハ全ク之レヲ廢シ故シテニ大都會ノ
 撰舉權ヲ廣フシテ其他ノ撰舉區ヲ制限シ以テ一般ニ代議
 士法ヲシテ各其區ニ應スル權衡ヲ得セシメシトテ求メヨ
 リ○是ニ由テ高貴族ハ下議院ノ事ニ關係ヲ有スル鮮ナク
 シテ市府民及殊ニ職工社會ニ於テ強ク之レニ關係ヲ及ホ
 スコトヲ得タリ

千八百三十二年ノ改革令ニテ英國巴理門ノ組立ナ左
掲ケン

第一上院

皇族

公

侯

伯

子

男

英國寺院

蘇國ノ被撰ヒール族

三名
イ英國

二十六名

三十一名
蘇俄用國ヨリ
出タルモノ合
シテ三十三名

百四十六名

二十六名

百三十二名

最高界涉大僧正
昇涉僧正

十六名

第二下院

百四十三名

(一)四十州ヨリ

(二)市府及城邑ヨリ 三百二十四名

(三)大學校ヨリ 四名

右合算四百七十一名

十五名

十四名

右合算廿九名

愛國代議ヒール族

廿八名

イ英國

右合計四百三十九名

(一)三十州ヨリ

(二)市府及城邑ヨリ 廿三名

右合算五十三名

イ英國

(一)三十二州ヨリ 六十四名

(二)市府及城邑ヨリ 三十九名

(三)ゾツリソ大學校 二名

此合算百〇五名

總計六百五十八名

其後千八百六十七年ノ新改革ニ於テモ右ノ方向ヲ固守シ
 尙ホ進テ撰舉人ノ員數ヲ増加シ殆ント普通撰舉法ニ近似
 セリ○而テ異ノ法律ニ據レハ撰舉者百万人ナリシカ千八
 百六十七年ニハ其數二百二十三万五千二百五十六人ノ多
 キニ昇レリ○此撰舉人ノ多數ヲ増セシハ他ナシ所謂民政
 主義ノ然ラシムル所ロナリト雖モ然レ共猶ホ下議院ニ於
 テハ未ダ貴族政タルノ性質ヲ損壞セサルナリ○千八百六
 十八年ノ被撰人六百五十八人ノ内三分一餘ハ「ロートル」族
 ノ子弟眷屬ニシテ其他大地而テ有スルモノ百人男爵ノ
 者五十七人大職業ニ従事スル者百十七人而テ當初下等ノ
 職人社會ニリ撰舉セル、モノ斷ヘテ有ルコトナシ
 代議府憲法興起史 終

第二款 歐洲陸地種族政ノ起源

○歐洲陸地ニ在テモ亦齊シク英國ニ於ケルカ如ク種族代
 議法種族ノ開進ヲ致セシコトヲ希望シ種族ノ方畧ヲ運シ規
 畫ヲ施コセリ然レモ終ニ克ク國會ヲ建立シ今日ノ形狀ニ
 立至リタル所以ノモノハ夙トニ歐洲ニ於テ常備軍ヲ設置
 セシ以降之レカ進路ヲ取リシモノニシテ群雄競ヒ起リ歐
 洲ノ全土四分五裂ノ姿ヲ成セタル數大戰爭ノ力ク最ニ其
 大キニ居ル

第壹 最初種族議事ノ頗フル盛ンニ行ハレタルモノハ「レ
 レ」テ「ヤ」半島（按今ノ西班牙及葡）ノ各國ナリトス就中「ア」ゴ
 ソ王国ノ如キハ實ニ頂上ニ國王ヲ戴シ所ノ一個ノ共和政
 治ニシテ貴族及僧侶ハ勿論町民モ第十世紀ノ初期ニ際シ

併セテ「コルテス」ノ名事院ニ于與シタルモノト見ヘタリ而シテ當時コルテスノ威權ハ國王ヲ壓倒スルノ勢力ヲ有セリ
 ○彼ノ有名ナル「アラゴン」種族ト國王トノ誓約ニ曰ク臣等固ヨリ陛下ト異ナル所ナシ陛下ノ有スル所ノ威權ハ臣等亦齊シク之ヲ有ス臣等陛下ヲ舉テ國王トナシ後ニ將ヤニ約セントス必ス臣等カ有スヘキ所ノ權利ヲ保護セヨ而テ臣等カ有セサル所ノ權利ハ陛下モ亦之ヲ有スルヲ得スト
 ○議院ニ於テ一同決議シタルモノト雖も種族中ノ一議員ニシテ苟クモ之ヲ認可セサルコトアレハ國王ノ起草セタルモノナレバ其一種族中ニ於テハ之ヲ實施スルコトヲ故障スヘキ充分ノ權力ヲ有セリ國君ト「コルテス」ノ間ニ爭事ヲ生スルヤ則チ「ユスタキヤ」ト稱スル所ノ大判事之ヲ判決ス○

然レハ如斯政體ナルヲ以テ國家ノ一致ヲ求ムルヲ難シカスナリヤ國市府民代議士ハ千百六十九年既ニ「ブルゴス」ト「コルテス」ノ事ニ與カリ千百八十八年ニ途シテハ代議士ヲ出ス所ノ市府其數四十七ヶ所ニ昇リ千三百十五年ニハ九十ヶ所ノ多キニ至リリ○又「カスナリヤ」國ニ於テ種族權威ノ減メニ行ハレタルハ第十四世紀ニ在リトス而テ市府民代議士ノ權威最も盛ンニシテ其勢力ハ僧侶貴族ト雖も之ニ抗スルヲ能ハザリキ然ルニ其後ニ市府ノ同類中ノモノ他ノ「ブルゴス」及「トレイト」ノ如キ最モ繁昌ニシテ勢力アル所ノ市府ヲ結息スルノ心ヲ起セ之カ爲メニ萬端ヲ結ヒ紛亂解テス普通人民ト共ニ全市府ノ總力ヲ動搖セ其内都ニ於テハ互ヒニ黨派ヲ樹立シ其害害ニ勝テ可カラサル

ナ以テ終一千五百二十年、カル、第五世ノ爲メニ市府ノ權
 力ヲ舉テ悉ク絶滅セラル、ニ至レリ
 第十六世紀ノ末期ニ至テ西班牙ヒリッポ第二世ハ潛カニ「コ
 ルテス」ノ權力ヲ割ソコトヲ希圖シ故テニ其權力ヲ助ケル
 ノ假道ヲ爲シタル中央古來種族ノ獨立權ハ自ラ地ニ墮テ
 カルト國家靜謐ノ機トニ乘シテ統一ノ治ヲ施キ君權無限
 ノ王位ヲ建テリ其後漸ヤ今世紀ニ至リ王家ヲ顛覆シテ
 人民自由ノ權利ヲ恢復スルヲ見ルヲ得タリ
 葡萄牙國ニ在テハ「アルフォンソ」ナル若盾ヲ據シ劍ヲ提ケ
 數度ノ戰場ヲ侵シテ終ニ能ク其國ヲ鎮壓シ羅馬法王ノ勅
 宣ヲ以テ葡萄牙王ノ位ヲ踐ミ「アルフォンソ」第一世トナリ
 千百四十三年「ラメゴ」府ニ國會ヲ開キ以テ新王國ノ制度

ナ作ラシメタリ而テ此國會ヨハ「コルテス」及貴族ト共ニ
 葡萄牙市府ノ代議士亦之ニ參與セリ○王ハ更ニ復シ此
 國會ニ命シテ躬ラ國王タルヲ確認セシメ乃チ劍ヲ手ニ
 シ勅シテ曰「朕此劍ヲ揮テ汝衆庶ノ患難ヲ救ヒ汝衆庶ノ仇
 敵ヲ仆シタリ而テ汝等今朕ヲ奉戴シテ汝等ノ國王トナセ
 汝等ノ社友トセリ汝等今マ國家ノ安寧ヲ保持セシカ爲メ
 ニ爰ニ國法ヲ鎮定セシ曰「諸シムテ皆テ領ス臣等固ニ之ヲ
 欲セリ君王」ト而シテ後ナ王ハ直チニ議事ニ就カシム議
 員等互ニ語シテ曰「先ツ第一ニ國王ノ世襲法ヲ製スヘシ」ト
 次テ之ヲ製シ畢ツテ他事ヲ議セリ○葡萄牙ニ於テ爾來數
 百年總錦トシテ此自由憲法ヲ存セシカ后チ國王ノ威徳漸
 ヤク枯凋テ來シ尋テ政權ヲ握ルノ志氣廢散スルニ至リ

乃十此憲法ハ混漫ニ屬セリ然リト雖也同時ニ「アラクソヤ」
 一家ニ於テ千六百四十一年國王ノ位ヲ踐ニ先王ヲ放逐シ
 僧侶貴族及平民ナル三種族ヲシテ「教廷」ヲレタル先王ニ服
 従スルコトヲ禁シ新王ヲ奉戴シテ新王家正統ノ世襲法ヲ定
 ムセシト摺ハレテ從前ノ憲法ハ全ク之ヲ更改セテ更ニ國
 會ヲ再興セシメタリ而レテ此種族制モ亦第十八世紀ニ際
 シ沈淪シテ行ハレザリシ〇是ニ由テ之ヲ觀ルニ葡萄牙國
 ニ於テハ千六百四十三年ノ昔ニ在テ業ニ既ニ三種族會議
 法ヲ設置シ上下ノ交際ヲ厚ラセシモノナルモ降ツテ第十
 七世紀ノ後半期ニ至テハ徒ニ告勸ノ儀儀ニ屬シ「コロナス」
 ヲ召喚スルコトヲ甚稀ニシテ終ニ第十八世紀ニ至テハ其跡ヲ
 ダモ見ザルコトナレリ〇其後近代ニ至テ始テ近時ノ跡賤

ニ因リテ復テ國會ヲ興セリ
 第二ニ中歐羅巴ニ於テハ英國ノ如キ平民種族ノ代議法ヲ
 設置シタルハ第十八世紀ニ際シテ始テ其端ヲ開ケリ然ル
 ニノルマンチ一國ノ古年代記ニ於テ牧奪人ナル「ウギス」ヘ
 ルム王ハ英國ヲ征伏セシカ爲メノ準備トシテ「ノルマンチ」
 一國市府最貴ノ人民ヲモ「バロン」族ト併セテ一ノ國會ニ召
 喚シ共ニ布告布達ヲ議定セシメタリトアリ蓋シ此記事ヲ
 ルヤ後世ノ想像ニ成リタル架空ノ談ナルコト明晰ニシテ固
 ヲリ取ルニ足ラス之ヲ古昔ノ世語ニ擬スルニ唯テ貴族ト
 云フニ過キザリシノミ
 第十八世紀ノ前ニ在テハ市民未ダ議政ノ事ニ與ラス局外
 傍觀人ナルノ性質ヲ帶ヒタルモノニシテ又ク未開人民中

コリ實士ヲ殊別シ之ヲ拔擢スル等ノヲモナシ或ハ假令市
 府ノ措置如何ヲ諮詢スルヲアリントスルモ當時猶未ダ市
 尹ノ如キ官吏ヨリ之ヲ代議士ヲ兼テルニ過キサルノミ
 之ニ反シテ佛國王ハ千二百二十七年、千二百四十年、千二百
 四十五年、千二百五十六年頃ニ在テ良市府ノ平民ヲ召集シ
 樞要ノ事件ヲ議セシメタリ但シ其目的トスル所ハ單ニ市
 府ノ援助ヲ仰キ王室ニ便セント欲スルノ意ニ出ヨルモノ
 ナリ〇彼所謂美ヒリツプ王ニ至リ千三百零七年ニ方テ始
 メテ三種族(僧侶、貴族、平民)ヲ召集シ普通國會ヲ開キタル所
 以ノ者ハ何ソヤ當時該王ハ羅馬法王、ボエラ、ナウス、第八世
 ト輒機ヲ生シタルヲ以テ人民ヲシテ國王自己ノ壘壘トナ
 シ且ツ自カタク欲スル所ロイ意旨ヲ決行セントスルニ在ル

モノナリト謂ハソノミ而テ、ルイドウモヒ第十世ノ代(自千
 三百十四年至千三百十六年)ニ際シテ國會ノ基礎ヲ鞏クシ
 以テ三種族ノ決議ヲ經キレハ則チ些少ノ租稅ヲモ賦課ス
 ルト能ハサルコトナレリ如旣第十四世紀ノ央ニ至テハ種
 族ノ權力實ニ動大ニシテ行政權モ亦其權内ニ屬セリ就中
 此種族第三列ノ者最モ威力ヲ逞クシ民主政ノ主義非常ニ
 行ハレテ威權下等社會ノ手ニ歸シタルモ自治專制其底止
 スル所ヲ知ラス網弛ヒ紀廢ダレ利器柄ヲ傷ナヒ潰亂ノ極
 己レ自ヲ制抑スルコト能ハサルニ至リ後々王威ノ反動力ヲ
 發揮セ氣煽ノ慮ヲ所暫ク(自千三百八十三年至千四百十二
 年)種族ヲ召集スルコト止ムルコト致セリ然リト雖ヒ其後
 千四百十三年ノ變革以來復シ屢々種族ヲ召集シ第十六世

紀。至ルモ之ヲ廢スルコトナカリシガ第十一世、ルードウ
 王ニ至テ佛國ニ於テ君權無限ノ制ヲ企テ終ニ種族ヲ
 テ自カテ專制君主トナリシヨリ以來、ニエーゼン、ロ
 三種族ヨリ撰出マシテ祖立タル州會ニシテ第十
 四世紀ノ初期ニ起リ千六百十四年ニ至テ止ムノ法ヲ設ク
 ガリ其後、ルードウ王第十四世(從千六百四十三年至千
 七百十五年)ノ代ニ及テハ全ク徒法ニ屬シ第十八世紀末期
 ノ變動ニ乘リ再ヒ此法ヲ興復スルヲ得タリ此種族制ニ於
 テハ第一ニ利己主義ノ代議者ノミナルヲ以テ各種族ハ一
 ニ其私便ヲ慮リテ議決スルニ過キス而テ市府各代議士ニ
 至テハ其府知事ノ拔擢スル者ヲ出スカ如キ存權ナリ抑モ
 國家タルモノハ人休ニ於ケルカ如ク各其機關ヲ以テ之カ
 活働ヲナスモノケルカ故ニ如此制度ハ固ヨリ充分ニ國民

會タルノ主義ヲ盡キ、ルモノトス
 第三 諸國種族州會憲法ハ佛國ノ如ク國逸領内ニモ亦第
 十三世紀ニ興リ殊ニ十四世紀ヲ以テ之カ盛時トナス○而
 シテ市府代議士ノ獨逸國會ニ參與スルノ制ハルードウ、
 フォン、バーナスブルク王(從千二百七十二年至千二百九十一
 年)以來ニ起リ必ク其規則ヲ履行スルヲ得ルニ至レリ然
 リト雖モ權カニ公僕等ノ會スル所上院トナリ市府ノ坐ス
 ル所下院トナリタルニ過キス而テ之ヲ要スルニ上院ニ在
 テハ獨立君主政ヲシテ特ニ其君長ノ頭部ヨリ代議シ下院
 ニ在テハ共和政ヲシテ諸民間ヨリ撰舉セズ特ニ其内ノ頭
 部ヨリ代議セシムルノ風習ヲ養成シ之カ爲メニ興成ナル
 國民巴理門ノ興起ヲ阻礙セリ

然リト雖ヒ獨逸各州内所在殆ント種族州會憲法ヲ採用セ
 サルモノナキニ至レリ而テ此種族州會ニ於テモ當初ハ三
 種族ヲ分別シテ召喚スルモノナリシガ後ナ一般ニ州内ノ
 三種族ヲ團結シタルヲ以テ其效果終ニ眞成ノ州會ト成ル
 ナリトシ其團結セシ所ノ種族ヲ揭クヘシ

「ア州内ノ大僧正タルニルツヒシヨフ及「アプト」ハ曩時ニ國
 君ノ廷會ヲ分離シ別ニ已レノ主權ヲ以テ充分自己ノ領内
 ニ擴メント企謀シタルヲモアリシカ第十四世紀以來ハ第
 一列種族ニ列シテ州會ニ參與スルヲ以テ通常己レノ利益
 ナリト認ムルコトナレリ
 「ス貴族數多ノ大國ニ在テ殊ニオースタリ、ベトナム、タイ
 ルサクセン諸國ノ如キハ侯伯紳等ノ種族ヲ以テ中間ニ

位スル所ノ「リツタルヤイト」部ト殊別シ「ヤクセン」諸國
 ノ如キハ英國ニ齊シク卒ムテ貴紳ハ貴僧ト合シ而テ「リツ
 タル」族ハ市府代議士ト併合セリ○然リト雖ヒ其他ノ國々
 ニ於テ通例小數ナル高貴族ハ他ノ財産ヲ有スル所ノ「リツ
 タル」ヤイト部ノ傍輩ト混同シテ一種族ト儼シヨリ即
 チ「ヤクセン」部、ブラウツン、ツキグ、アランドンブルク、チユイリ
 ソゲン、ボムノルン等諸國皆然リ○此「リツタルヤイト」部
 部ナル者ハ最も數多ノ人員ナリ如何トナレハ「リツタル」族
 ノ會員ハ勿論其他「リツタル」領内ニ財産ヲ有スル所ノ王臣
 及財産ヲ有スル國家官吏モ亦之ニ含有スルモノナレハナ
 リ○「リツタル」國各種貴族ハ法令一領地ヲ有セサルモ猶能
 ク其分限ニ於テ國會議員ナルノ權利ヲ有セリ

「セ」市府は於テ國會ニ參與スルノ權ヲ得ヨルハ通例第十四世紀ニ在リ而テ第十三世紀ニ際シテ夙トニ國會ニ參與スルヲ得タルモノハ獨逸聯邦内ニ於テハ誠ニ僅々ノ少數ナルノミ○ボエトメノ「國教育ノ度ハ之ヲ他ノ國有ノ獨逸各國ニ比較スルニ其進歩最モ舊クシテ既ニ千二百八十一年ニ際シ市府ヲシテ國會ニ干與セシメタリ但シ後年ニ至テ此干與權認可ノ事ニ關シ貴族ト紛議ヲ生シタルヲアリ○「バチニル」國ニ於テハ千三百零七年ニ方テ市府ノ代議士ヲシテ貴僧及リクタル「族ト共ニ之ヲ召集シテ貨幣ノ質ヲ悉クシ租稅ノ減額ヲ生シタルカ爲メ重テ課稅スルヲ等テ議セシメタリ而テ都府ト市街ヲシテ「ル」トウキヒ、王ノ時即チ千三百十五年ニ方テ領主（按スルニ按ニ領主ト云ヘ

區々ノ土地ヲ支配スル領主（按スルニ及リ「ソストロキテ」國君ノ同視スルカラス）（按スルニ領地ヲ給シテ國主ノ）ト相併立セシメタリ○「ラフソブ」國タルグ國ニ於テハ千三百零八年來市府ヲシテ政權アルモノトナシ國政ニ干渉シ國君ノ咨議ニ與カフシメタリ○「ウテナル」國ニ於テハ千三百五十六年既ニ國會ヲ貴僧、リツタルシヤ「ト」及市府民ヨリ編成セ其現存スル所ノ種族ノ協同ヲ重シシケルモノナリ是ニヨリ後チ其市府ニ於テ國會ニ代議スルハ自ラ其例規トナシ然リト雖モ通常其代議士ハ一般人民ヨリ撰舉セズ即チ之ニ應スルモノハ市府中ノ評議官ニ非ヤレハ區長其職掌ノ故チ以テ國會ニ干與スルモノトセリ

獨逸國ニ於テ斯ノ如キ制度ヲ建ツルハ當時實ニ至要ナリ

ジモノトス抑モ國家ノ一和ヲ來タシ邦國教育ノ裨益ヲナ
 スモノハ殊ニ此ニ基カキルハナシ而テ總督國君行政權並
 ニ國人自由ノ上進ニ補益アルヲ盼シトモス○ボイレン國
 會ニ在テ市府ヲ除去シ「ウソカー」ルン」ニ於テ市府ヲシテ全
 ク下部部ニ置キ之ヲ輕視スルカ如キハ即チ政治ノ方嚮甚
 ハタ暴惡ニ傾ムキ國家高尙ノ地位ヲ占ムルノ目的ニ對シ
 痛ク其活動力ヲ缺損スルモノト謂ハサルヲ得ス
 獨逸内ノ各國會ニハ第四列ニ位スル所ノ農民種族罕レニ
 國會ニ參與スルヲアリト雖モ通例農民等ノ參與スルヲチ
 必要トモス高僧及リツアルンヤイフト部ノモノ共配下ノ
 農民ノ爲メニ自カラ之ヲ可否スルハ猶ホ國君ノ其直轄農
 民ニ於ケルカ如キヲ以テ足レリトスルニ過キス○然ルニ

「ブリー」ヤ國會ニ於テハ否クテ該國農民ノ内ニヨリ擯出ス
 ル所ノ里正及郷長ハ貴族等ト與ニ國會ノ集會ニ列ナリ國
 家ノ安寧ヲ評議セリ○「フレメン」ニ於テハ荒蕪ノ濕地ニ住
 スル寒村僻落ノ農民ト雖モ亦等シク國會ニ參與セリ○「チ
 ーロル」ニ於テハ千四百十八年來「リツタル」族及市府ノ外ニ
 在ル小村民モ亦代議士ヲ出シ汲々トシテ農民ノ思想ヲ體
 シ其利益ヲ計テシメタリ
 第十五世紀ニ至テ種族國會ノ權力高點ニ達シタリ然リト
 雖モ之レカ爲メ却ツテ國家ノ要需ト君權ノ一和トニ對シ
 テ多クハ之レニ抗スル所ノ方向ヲ限ナタリ此誤謬セリ生
 スル所ノ弊害ハ終ニ從來國會ノ良制ヲ破壞スルヲ以テ最
 終世紀ノ專制法ヲ行フニ充分ノ口實ヲ籍シ與ヘ而シテ君

主ノ議員中實地ニ於テ甚ハタ尊重セラレタル羅馬教黨學
 及ヒ君主ノ設置シテ常備兵ノ爲メニ痛ク其力ヲ減殺セ
 ヲレ殆ント汎没スルニ瀕セリ○獨逸立法權ハ種族ノ新ニ
 聯合一致スルヲ及ヒ兵器ヲ携フル所ノ抵抗力ヲ阻碍セ取
 親上異論ヲ唱フルコトノ權利ヲ制限シ以テ國君ノ主權ヲ皇
 張スルヲ稍メテ○三十年間ノ戰ニ依テ終ニ全ク種族
 國會ノ制ヲ消滅セリ○獨乙聯邦内ニ於テ或ル君主ハル
 ドウキヒ王第十六世ノ專制法ヲ執範トナシテ復テ國會法
 ヲ設置モキルモノアリ或ハ徒ラニ國會ノ設アルモ有名無
 實絶テ其効ナキ迄ニ壓伏セシムルモノアリ而ルニウエ
 ヲンベルグノ如キハ猶未タ國會ヲ存在シテ稍其効顯テ奏
 セシメタルノミ之ヲ免ルニ獨逸同盟ノ解散ニ依リ斯ク成

リ行レモノナレ共其後又々現時ノ體裁ニ倣フテ之ヲ新立
 ヒリ

第三款 種族政憲法ト民政トノ別

中古種族憲法ハ君主專政ノ氣焔熾ナルニ及ンテ第十四世紀ノ中頃ヨリ漸ヤシテ其他ノ中古ノ政體ト共ニ委靡衰頹ヲ來セシ世ノ開進スルニ從カヒ所謂種族政ニ代ルニ民政主義ヲ以テスルコトハナレリ抑種族政ト民政トハ與ニ君主專政ニ抵抗シ力メテ政權ヲ臣民ノ手ニ保有セシコトヲ主眼トスルニ至テハ殆ソト同一ノ點ヲ保テ而シテ種族政ハ民政ノ初歩ニ居リ一變シテ民政ノ室ニ登ルヘキモノナレハ猶ハ中古政治ノ精神ト近世政治ノ精神トノ差異アルヲ見ルカ如キニ過キス之ヲ要スルニ相伯仲スルモノト謂ハシノミ故ニ今相伯仲シテ或ヒハ之ヲ混同視スルコトアラントテ顧慮シ之ヲ異同ヲ推究シ以テ其主義ヲ異ニセシ所ヲ對照

スル左ノ如シ

種族政主義

(一) 種族主義ハ殊別アル所ノ品位ニ因テ成立スルモノナリ(故ニ中古ニ在テハ勢力アル種族ノニ止マリ敢テ他ノ種族ヲシテ關係スルコトヲ得ヤラシメザリ)

(二) 是ヲ以テ族長及顯貴ニシテ勢力ヲ有スル者ハ一個ノ人トイヘ所尚ホ能ク一種族ヲルコトヲ得タリ

民政主義

(一) 民政主義ハ全國民ノ一和ヨリ出テタリ(故ニ時勢ノ變遷ニ隨ヒ位地如何ニ問ハズ都テ一議院ニ會合スルニ至レリ)

(二) 族長及顯貴ニシテ勢力ヲ有スルト否ルトニ論ナク其代議士タルノ分限ニ至テハ上ニ連ルカ如キ權力ヲ保ツス一議員タルニ過キザ

(三) 市府及一社會ヲ成シヨル者ヨリ出ル所ノ代議士ハ其撰舉人ノ指揮ニ隨テ己レノ方向ヲ定メ而シテ後テ其事ヲ議定スルモノトス

...

(三) 代議士タル者ノ議事議決スル所ニ就テ毫モ撰舉人ノ牽制ヲ受ケルコトナキノミナラス之ヲ牽制スルハ法ニ於テ容サレル所タリ抑議員タルモノハ素ヨリ撰舉人ノ意思ヲ體シテ代議スルモノナリト雖モ議事議決ニ至テ敢テ其牽制ヲ禁ムル所ナシ然レモ議場ニ在テ評議スルノ際充分ニ他説ヲ發成シ若

(四) 種族代議士ハ豫メ各族中ニ決定セザル所ノコトノ委屬ヲ受テ代辨スルニ過キズ第十七世紀ニ於テ波蘭國會ノ人員ハ他ノ代議士ニ於テ既ニ議定スルモノト雖モ議員ニシテ尙能ク異議ヲ唱ヘ

クハ己レノ意思ニ反スルモノヲ論駁シテ議員タルノ本分ヲ盡シ之ヲ議定スル所ノ事柄ハ之ヲ保任ノ責ニ當ルモノトス

(四) 議員ノ決議ハ多數ニ決定ス而シテ代議制ナルモノハ必ク是全部ノ協同ヲ要スルモノトス

獨り背ラセサルモノアレハ
其衆員ニ背テ之ヲ行ハサル
ノ權ヲ有セリ是其ノ確證ナ
リ

(五) 種族ノ代議士ハ其責任
ハ撰舉人ニ在リ且ツ費用ノ
如キハ撰舉人ヨリ拂出スモ
ノタリ

(六) 種族政ニ於テハ第一ニ
各種族ノ利益ヲノミ惟レ計
リ次テ一般ノ公益ニ及ホス
モノトス

(五) 人民ノ代議士ハ其責任
ノ在ル所獨リ國家ニ在ルノ
ニ而マテ之ニ充ツル所ノ費
用ハ國庫ニ仰クモノトス

(六) 民政議員ニ在テハ若ト
セテ國家ノ公益ヲ關リ一部
ノ利便ニ至テハ須ク之ニ
次テ計議スヘキモノトス

(七) 種族ニ於テハ新稅ヲ賦
課スルハ自ラ其須要ナル
ヲ承認メテ之ヲ賦課スルヲ
ヲ聽ルス又政事ノ概要ニ關
スルコトハ種族トノ約定ニ許
ス所ニ非レハ國王ヲシテ專
決スルヲ聽カ、ルモノア
リ例ヘハ國ヲ典スルヲ國ヲ
賣ルヲ國部ヲ分割スルヲ和
戰ヲ決スルヲ等ノ如シ其他
又某種族ニ在テハ屢々自己
ニ其部内ノヨミヨリ租稅ヲ出

(七) 近代ノ議院ハ總歲出入
ノトニ關シテ國家統一ノ保
存如何ヲ觀考シ政府ノ草案
ヲ決定スルヲ補助シ租稅
立法ノトニ干與スルトハ難
シ唯々議院ノミヲ認許ヲ以
テ直チニ實施セズ又租稅ノ
徵收方ト支出方ヲ管理スル
ヲナシ

スヲアヲ加ルニ此租税ニ
充テシタル國庫ヲ自カラ管
理スルコトアリ

(八) 種族ハ國王トノ約束ニ
義ヲ確保ス○種族ノ國君ニ
對シテ其利益スル所ハ唯一
クノ取極メニ因ルノミ○種
族ノ權利ト自由ハ自カラ其
約束ニ從フテ之ヲ確定シ及
ヒ更改ス

(九) 種族ハ獨立ノ權威ヲ有
スルカ如ク或ハ國王ト商議

シ其議ノ合ハサルニ當テハ
之ト爭論シ時トシテハ戰闘
ヲ作シ其形狀恰モ各獨立國
間ノ戰闘ニ於ケルカ如シ○
而テ各部ニ於テ自カラ説ヲ
蓄ヘ補テ養ヒ互ヒニ割據シ

テ其部兵ヲ指揮左右セリ
(十) 中古ノ種族ハ國君ニ屬
スル下臣ノ形ヲ表シテ立法
ノ職務ヲ執リシト雖モ時ト
シテハ其勢力ヲ擴メテ職ト
シテ中央政府ノ事ヲ自任シ

(八) 近代ノ國家ニ於テハ一

和ノ立法主義ニ基キ議院ハ
其一和ノ立法ニ參與ス而テ
一般ノ自由權並ニ各階級ノ
權利ヲ自ラ保有スヘキコトハ
唯之ヲ普通國法ニ俟リテ得
ルニ過キス

(九) 近代國家ハ如斯機關ヲ
分割スルコトヲ許サズ國家ノ

一和ヲ存シ兵制一途ニ出テ
兵馬ノ權分カルハ所ナク元
帥一人ニテ之ヲ惣轄シ即チ
國家一致ノ兵團ナリ

(十) 近代ノ國家ハ全政府ノ
職務ニ關シテハ議院ノ與カ
ル所ニ非ス而テ能ク其事ニ
就テ志想ヲ示スベシトハ總
ル自ラ政府ヲ任トスルコトナ

國王ニ助官シテ其決ニ從ハシメタリ而テ須要ノ場合ニ於テハ國王モ亦親カラ議事ヲ出マテ共ニ其決定ヲナセリ

(十一) 種族ノ常會ニ會議ノ期ヲ長クセロト屢々アリ而シテ其會議ニ於テ初メハ政府ノ統計ヲ監察セシモノナリモ往々國王ノ議官トナリテアリ是種族ノ不都合ナル會議ヲ解キ免ニ之ヲ全廢

然レモ立法ノ事ハ代議士ニ切ノ本務トシテ之ヲ擔任セリ

(十二) 近代ノ國家ハ規則ヲ定メ代議士ノ會議ノミトナシ政府ハ其會議ヲ妨グルコトヲ又恣マハ之ヲ使用スルコトヲ

(十二) 中古種族ノ權利及義務トナル所ハ半ハ私法ニ發シ半ハ國法ニ出ツルモノナリ

公法上ノ代理法ハ私法上ノ代理法トハ全ク別異ナルモノナリ故ニ私法ヨリ出ツル所ノ原則ヲ以テ公法ニ施スコトヲ許サス

(十二) 代議士ノ權利ト義務トス

私法上ノ代理法トハ或ハ被代人即本人(例ハ幼年、瘋癲人等)ニテ行為ニ能ハサルコトアルカ又ハ被代人(例ハ本人不在ニ關シ若シハ商業上ノ都合)ノ要求ニ由ツテ他ノ行為ニ適スル人ヲシテ之ニ代ルモノヲ云フ又私法上ノ代理人トハ或ハ法律上不得

止ノコトニ由來セテ代理スルモノアリ殊ニ其概要ナルモノハ後見者代言人等ナリトス而シテ被代人即本人ハ常ニ主者タルノ分限ヲ有セテ代理人ハ唯主者ノ位地ヲ蹈キ其行爲ニ代ルニ過キス故ニ奉命者即代理人ハ命令者即委任者ニ違フモノニシテ其全權及命令ヲ奉承セテ其理辨シタル所ヲ復命セサルヘカラス決シテ專斷自爲スルノ權ナシ

公法上ノ代理法ハ右ニ述ル所ノ關係トハ全ク其性質ヲ異ニセリ公法上ニ在テハ一ツモ撰舉人ノ行爲シ能ハサルニ因ルニ非ス又シテ被代者自己ノ要求ニ由リテ被代者ノ隨意ニ委任シ得ヘキモノニ非ス唯國家ノ爲メニ設ケラルニ過キサルモノトス被代議者即撰舉人ハ主者ニ非ス代議者即被撰人モ亦被代議者ノ代辨人ニアラサレハ其命令ヲ奉

承スルモノニ非ス唯民役ヲ攝理シ國家ノ職務ヲ施行スルモノニシテ國及國民ノ代辨方ナリ決シテ一人一個ノ代理法ニ非ス而シテ代議人ト撰舉人トノ間ニハ其信任ナルモノヲ存シ決シテ命令者ノ如キ權利ノ關係ヲ有セス抑モ撰舉スルト云フハ唯ク適宜ノ代議法ヲ求ムルノ便方ナリ撰舉スルトナリ際シテ全權ナリ命令ナリト試認スベカラズ是故ニ被撰人ハ撰舉人ノ命令ニ齟齬セラル、コトナク又其行爲ヲ復答スルノ責メナシ○被撰人ハ撰舉人ヨリ勝手ニ召喚セラル、コトナク又其氣儘ナル命令ヲ受クルコトナレ其決定スル所ハ各代議士自己ノミニ結付スルヲ得ス又撰舉人ノミニ結付スルコトナレ素ヨリ法律ハ一般ノ遵奉セサル可クサレモノニ係レハ則チ其法律ヲ可トスルモ不可トスル

與スヘキハ當然ニシテ敢テ疑フニ足ラスト雖モ今ヤ此點
ヲ顧ニスシテ立法ト行政ヲ二箇ニ分テ互ニ相併立セ立法
權ハ下ヨリ上ニ向ヒ行政權ハ上ヨリ下ニ向フノ順序ナリ
トスルノ點ニ置クニ至テ始メテ政主ハ立法權ニ干與スヘ
キヤ否ヤノ疑問ヲ生スルモノトス

立法體ハ秩序ヲ具ヘタル全民ヲ指スヘキモノトスルハ
國家ノ元首ヲル政主ハ爾キ人跡ニ於ケル頭顱ノ如ク憲
秩序ヲ具ヘタル人民ノ上ニ立テ政主タルノ位地ヲ占メ
ルヲ得サルナリ○英國憲法ハ能ク此主義ヲ了知セタルモ
ノナリ在昔巴理門ノ約束中既ニ此主義ヲ含蓄セシ古語
リ其言ニ曰ク「王ハ頭首ナリ」巴理門ハ始終ナリ「ト其他各國
トモ立憲君主ノ政體ニ基ツキ成立セタル所ノ近代ノ憲法

ニハ殆ソト立法權ヲシテ國王ト議院ニ附與セザルモノナ
キカ如シ

例ヘハ佛國ニ在テハ千八百十四年憲法第十五章及千
八百三十年憲法第十三章ニ曰ク「立法權ハ國王、上院、下
院ニ於テ協同ノ上ニ之ヲ施行ス」和蘭國ニ在テハ千八百
十五年憲法第百零五章ハキエル國千八百十八年憲法
第一章葡葡萄牙國千八百二十六年憲法第十三章第五十
八章第七十四章白耳義國千八百三十一年憲法第廿六
章西班牙國千八百三十七年ノ第十二章及四十六章ナ
アホリ「ソ」國千八百四十八年ノ第四章「キ」ニヤ國
千八百十八年字編西國千八百五十年ノ第六十二章編
逸國千八百七十一年ノ第五章ニハ食テ此主義ヲ載セ

近代ノ共和政國ニ於テハ通常之ニ反シ立法權ハ衆テ之ヲ
 大國民會ニ附與シ其體裁ニ在テハ政府ハ毫モ立法權ニ干
 渉セサルモノト做スモノ、如シ蓋シ斯ノ如ク此權ヲ殊別
 シ政主ヲシテ毫モ干與セサルヘキノ制ト做スハ固トニ誤
 謬ノ見解ニ出ルモノナリ殊ニ其誤謬ヲ探ルニ二箇ノ原因
 有リ一ハ大國民會ニ在テ民主政ヲ偏愛スルノ意ニ出テ一
 ハ政府ヲシテ此權ニ與カラシムルハ終ニ抑ニベカラセ
 ルノ大權力ヲ強クシテ手ノ嫌ヒアルノ意ニ出ツルモノナル
 ヘレ○然リト雖モ實際ニ於テ政府ハ立法權ニ干渉スル事
 シトセズ現ニ瑞西國ニ在テハ、イニコナヤヤナリ愚按スルニ
 議案ヲ下附
 スルノ權ノ權アリ北亞合衆國ニハ「ソヴェート」ノ權愚按スルニ
 議案ヲ下附
 スルノ權ヲ云フ

云
 ア

例ハハ北亞合衆國千七百八十七年ノ同盟憲法第一章
 第一項ニ曰ク「總体立法權ハ元老院及代議士院ニ成
 立スル所ノ合衆國ノ會議ニ委託スベシ」第一章第七項
 ニ曰ク「各草案ハ之ヲ實行スル前ニ合衆國大統領ニ持
 タセシム」ト其他北亞各國ノ憲法中咸ク此意ヲ掲ケタリ
 ○瑞西國ニ在テハ立法權ハ通常大會議ニ於テ之ヲ施
 行ス然リト雖モ政府草案ヲ製シ且ツ法律ハ議院ノ決
 議ヲ經カモ政府之ヲ認可スル後ニ非レハ施行ス可ク
 ナル規則トス瑞西國千八百七十四年同盟憲法第八十
 章及第二百零二章第二項、佛國千八百四十八年憲法第二
 十章及第五十八章ニ咸ク此意ヲ記セタリ○ノールウ

エーゲン王國ニ於テハ憲法第四十九章中民主政ノ意ヲ得クト雖モ其第七十六章ニ政府ニ「イニヤナリ」及「フエト」ノ權アルコトヲ載セタリ

第二 人民代議ハ務メテ其充全ヲ得ンコトヲ要スルモノナレハ諸民チシテ其階級ヲ同羅シ遣スコトナク下等社會ノモノト雖モ之ニ與カルヲ得セムヘシ但シ之ニ與カルヲ得ル者ハ國士タルノ榮譽ヲ願ヒサルヲ得ス是現今普通撰舉法ヲ行フノ基礎ナリトス若シ之ヲモ顧ミサルコトアルハ或ハ恐ルヘキ危害ヲ生スヘシ「マヤル」氏曰「佛國人ハ千八百四十八年王室ヲ顛覆シ國民ヲ舉テ撰舉權ヲ得ヨルコトヲ誇張セリ是他ナシ當時ニ行ハレタル金力政治ヲ撲滅シタルカ故ナレハ佛人ノ之ヲ誇張スルヤ宜ナリト謂フベ

シ然リト雖モ一時王室ヲ顛覆シ意氣驕奢ノ勢ニ乘リテ普通撰舉ノ權ヲ握リタルモノナレハ乃チ自然ノ道理ニ生スル所ノ國民ト國士ノ分別ヲ爲スヘキコトヲ願ヒスレテ一般ニ之カ同權ヲラシメタリ如斯ノ普通撰舉法ナルニ由リ其底止スル所或ヒハ社會黨ノ共和政治ヲ起シ或ハ「ルイ」チ「レオン」チ「ヂ」テ帝室ヲ建ツルノ機會ヲ得セシメタリト○而テ其普通撰舉法ト雖モ體制上ニ取ラスシテ算當上ノ充全ヲナスニ過キサレハ則チ所謂ノ充全ヲ求ムルモノ尙且ツ其宜シキヲ得ルモノアリ此法ニ依ルハ寡數ハ之ニ與ル能ハサルコト屢々アリ假令之アリトスルモ平均セテ論スルハ到底其當ヲ得ナルモノナリ○黨派ノ盛ナル時ニ際スレハ撰舉人ハ勢ヒ其黨派ノ爲メニ撰舉シテ一己ノ

利害如何ヲ顧ルニ違フラサルヤアリ此時ニ際シテ弱黨ノ
 數ハ蓋シ全民ノ三分一ニ過キサルモノトモハ則チ擧舉區
 ノ多數ニ由テ撰ヒ出サレ、斯ノ人固ニ至テハ弱黨ノモノ
 ハ殆ブト之ニ與カルヤテ見サレテアリ假令之アルモ全被
 撰數ノ十分一ニ踰ヘサルヘシ加給人民ニハ種々ノ成立部
 分アツテ種々ノ利益ヲ殊ニスルアルモ此擧舉方法ニテハ
 一モ人民機關ノ割合ニ適應セサルベシ抑モ代議法ハ其成
 立部分ト其利害トニ應ヒテ人民ノ安寧ヲ計議スル旨意ニ
 出タル約束ニ外カナラス然ルニ人民機關ノ割合ニ適應セ
 キル擧舉法ハ此代議法ノ約束ニ反ルモノナリ何トナレハ
 所謂擧舉人ト稱スルモノハ一般ニ總國士ヲ算スルノ數ニ
 過キスレテ素ヨリ種々ノ成立部分ヲ顧ミテ種々ノ抑益ヲ

慮ルヲナケレハナリ如是ニシテ政治ノ一和ヲ來ラシ公正
 善美ノ志想ヲ求ント欲スルハ亦思ワサルノ尤甚シキモノ
 ナリ○蓋シ或ハ普通擧舉法ヲ目シテ直チニ諸國士ハ皆
 ナ同等ノ擧舉權ヲ得ルノ法ト述テ敢テ之カ制限ヲ設ケ
 ルヲナキヲアレハ凡ソ國內ニハ不學無識ノ徒ヲ多數ナル
 チ以テ其勢力ヲ上等社會ノ上ニ按スルニ茲ニ上等社會ト稱
 識多才ノモノトモナリ得テ爲メニ其多數ニ按スルニ多額ハ擧
 云フモノトモナリ得テ爲メニ其多數ニ按スルニ多額ハ擧
 學無識ノモノトモナリ得テ爲メニ其多數ニ按スルニ多額ハ擧
 徒ヲ云フノ以テ眞實ニ按スルニ多額ハ擧
 ルヘシ今夫レ數ノ多寡ヲ以テ之カ制ヲ定ルルハ父ハ嗣ヲ
 兒輩ノ下ニ居リ子分ハ親分ノ上ニ至シ臣ハ君ノ上ニ卑幼
 ハ尊長ノ上ニ貧賤ノ者ハ富貴ノ者ノ上ニ無識者ハ博識者
 ノ上ニ立フト同一理ナリトス○是即チ民政專制ノ主義ニ

セテ機關至當ノ代議法ニ代フルニ單ニ多數不當ノ代議制
ヲ以テスルモノト謂フヘキナリ

ヤスモンヤ一氏普通選舉法ノ事ニ關シ明確ナル所論
アリ即チ自由國民憲法研究ト稱スル書ニ掲ケテ曰ク
今日行ハル、所ノ編制ニテ宗教、教育、耕作、商業、職工等
ノ各裨益ヲ計ルコト得ルコトアレハ洵トニ偶然ト云フ
ベクシテ決シテ當然ノ事ト謂フベカラス今日ノ制ニ
就テ一州ノ被擧人ヲ概觀スルニ其内各裨益ヲ計ル厥
ノモノ幸ニシテ被擧ノ任ニ當ルモノアルモ僅カニ壹
名アルニ過キセルヘシ尙ホ此算方ト雖ハ確乎タルモ
ノトスベカラス願フニ如斯ノ裨益ニ關シテ代議スル
者ハ斷シテ壹人ノアルナシト謂モ可ナルヘシ適コト

有之トスルモ初メヨリ其部分ニ應ジテ選舉シヨルモ
ノニ非レハ其事ノ利害如何ヲ知了スル能ハス究竟之
カ裨益ヲ保持ス可ラセルモノナリ

是等ノ不便アルニモ係ハラス普通同等ノ選舉法ハ今代ニ
於テ盛ンニ行ハルヘキ勢力ヲ作シテ試ミニ看ルニ德國、瑞
西國、伊多利國、獨逸國等ニ於テハ既ニ此法ヲ用ヒ北亞合衆
國モ亦漸ク之ヲ行ヒ又英國ノ選舉法モ稍々此法ニ敗ハソ
トスルノ勢ヒアリ○斯ク此法ノ盛ナルハ時勢ノ民政ニ傾
向スル徵候ニシテ諸民同權ヲ保テ國中ノ男子ハ一般ニ可
成的公務ニ參與セシメソトスルノ主義ニ基クモノニシテ
國民大級(扶スルニ全國ノ下等)ヲ舉ケテ悉ク政事上ニ自己
ノ感覺ヲ與ヘ漸ク國政ニ干涉セシメ終ニ兵籍ニ加ハルノ

義務ト履行セシメントスルコト明クシテ
然レ而テ此事固ヨリ美事ナルニ相違ナシト雖也之カ實効
ヲ見ハシ且ツ前ニ述フル所ノ不便ヲ改良シ完全無缺ノ域
ニ達スヘキヤ否ヤハ但シ將來ノ問題ニ係ルモノナリ
第三 代議法ハ至當ノ比較方法ヲ用テ之ヲ製スヘシ○
ルボ一氏ハ千七百八十九年一月三十日ニ在テ此主義ヲ説
明セリ當時佛國民會ニテハ其論旨ニ左祖スル者ナク痛ク
之カ駁撃ヲ受ケタルニモ屈撓セス斷乎トシテ之ヲ主張セ
リ其説明ニ曰ク代議士ヲ撰フノ制ハ種族法ニ據ルヲ以テ
可ナリトス抑モ種族ノ國民ニ於ケルハ猶ホ土地ノ表面ヲ
示ス所ノ地圖ニ於ケルカ如シ地圖ノ制タルヤ之ヲ其部分
ニ照ラスモ全体ニ徴スルモ常ニ其割合即比較キ以テ元勳

ト同一様ナルコトヲ示スヘシト實ニ地圖ノ制タルヤ山ト谷、
海ト河、森ト野、町ト村ハ各其部分ニ應シテ判然之ヲ區別ス
ル如ク立法者モ亦人民ノ成立部分及此成立部分ヲ合シヨル
全胚ヲモ等シク之ヲ一所ニ組織シ必スヤ其割合比較ヲ傷
フベカラズ○斯ノ如クセハ眞部（按スルニ眞部ト同シ）ハ
多塊部（按スルニ多額ニ同シ）ノ爲メニ壓倒セラレ、
又之レカ爲メニ多塊ヲ獨ラ顯ニサルカ如キ不公平ヲ招
クテアルナシ然ラハ則チ人民ノ成立部分ハ全体ノ内ニ於
テ各其本分ニ應シテ活動スルコトヲ得隨テ全体ヲ傷タルコ
トナルベシ

割合ハ機關ナリ全体ハ國民ナリ
第四 普通選舉ノ主義ニ基ツキ一院ヲ置クヘキ乎將テ二

院ヲ設クヘキ乎ノ疑問ヲ解釋セシ○近代ニ到ルマテ瑞西
 國ニ於テハ數多ノ議院ヲ設キ又曩時佛國ニ於テモ獨逸ノ
 古國會ニモ數多ノ議院ヲ置キシコアリシカ此制ノ如キハ
 代議士ヲ數多ニ分ツカ爲メニ却テ其個力ニ弱ハラシキ不
 便ヲ生シタルガ故ニ近時ニ迄テハ通常一院ヲ置クト二院
 ヲ設クルト孰レカ可ナル乎ノ疑ヲ起スニ過キサリシ
 近代歐洲立憲政體ノ國々ニ於テハ殆ント二院ヲ置クヲ以
 テ規則トセリ唯テ革命ノ氣焰激烈ノ勢ニ乘シ全權力ヲ一
 ノ中央政府ニ集合シ鳴張ノ暴力ヲ極ムルノ時ニ當テハ民主
 政ニ煽動セラレタル人民共總代議士ヲ合シテ一院ニ歸メ
 シコアリ英國ニ於テスラ、カ、王第一世ヲ弑セシ後十即
 チ千六百四十九年ニ一議院ニ經メタル例アリ佛國ニテハ

千七百八十九年乃至千七百九十五年間ニ於テ此例アリ又
 其後千八百四十八年ヨリ千八百五十一年ニ至ルノ間及千
 八百七十年ニ此例アリ西班牙國ニテハ千八百十年獨逸國
 ニハ千八百四十八年ニ於テ此例ヲ行ツタルコトアレトモ之ヲ
 要スルニ一時ノ特例ニ止マルニ○現時此一院ノミナ置
 クノ制ハ瑞西國ノ或州及ヒ獨逸聯邦中ノ或小國ニ於テノ
 ニ之ヲ用ヒタリ願フニ寡少ノ人民ヲ有スル國ニシテ社會
 黨勢ナキモノハ此一院ノミナ置クノ制ヲ用ルヲ以テ可ナ
 リトス

歐洲ニ於テハ九百万以下ノ人口ヲ有スル國ハ一院ヲ
 置キ又九百万以上一億七千三百万以下ノ人口ヲ有ス
 ル國ハ二院ヲ設クルノ制ナルヘキコトヲ算定セリ尤ト

モ瑞西國ハ其人口寡敷ナリト雖モ二院ヲ置クノ制ナ
リトス

一院ヲ置クハ簡便ニシテ且ツ人民ノ一和ニ適スルモノ、
如クハ親ユレト止テ一院ニシテハ國家ノ全民ヲ示スヲ難
シトス何トナレハ則チ政主タル頭顱モ亦之ニ屬セサルヲ
得セレハナリ但ゾ一院ノモト雖モ宛然人跡ノ胴部ニ於テ
ルカ如ク頭顱タル政主ヲ省キ其他ノ人民ハ之ヲ示スニ足
リ又一箇ノ和同ナリト謂フヲ得ヘシ

然リ而シテ二院ヲ設置スルノ法タルヤ明クカニ古今ノ歴
史ニ徴スヘシ夫日耳曼國政ノ肇メテ起ルヤ其制ヲ人爲ニ
取フスレテ自然ノ成立ニ從フタルモノト謂フヘシ此時ニ
ゾモ業既ニ國君ニ屬スル民會部ト其他ノ國民會部ト判然

之カ分別ヲ爲シタリ而テ國家主義ノ理ヲ明ニシタル制度
組織ノ今日ニ在テハ却テ當時ノ制ニ及ハサルモノ、如シ
其他英國ハ勿論北亞ノ國々ト雖モ總テ二院ヲ設置スルノ
制行ハレタリ

今ヤ二院ヲ設置スルノ須要ナルコトヲ明セシトス

(イ) 今兩眼ヲ以テ物ヲ觀ルハ須ラシ四眼ヲ以テ觀ルノ優
ルヘキニ如カス矧シヤ位置ヲ更メテ同物ヲ鑑定スルニ於
テヤ二院ヲ設置スル亦此道理ニ等シキモノトス茲ニ立
法ノ草案アリ甲院ニ在テ其利害ヲ諮詢シ得失ヲ調査シタ
ル後ヲ更ニ乙院ニ於テ再議審査ヲ遂ルルハ其草案ハ益々
宜シキヲ得ソコ必セリ

(ロ) 抑モ目下ノ事ニ應シテ之カ處分ヲ爲スモノハ政府ノ

當務ヨリ而シテ立法體ナルモノハ人民永續ノ基礎ヲ秩序
 スルモノニシテ決シテ目下ノ用ニ供スルモノニ非ルニ因
 リ立法體ノ行爲ハ敢テ迅速ヲ要スルモノニ非ス否ト迅速
 ヲ要望ス可ラサルモノナリ故ニ甲院ニ決議セラルモノナ
 移シテ更ニ乙院ニ於テ議定スルモハ幾干ノ時日ヲ費ヤス
 ト雖モ敢テ之カ爲メニ妨害ヲ生スルコトヲ抑二院ノ制ヲ
 設ケルノ利益ハ一院議決スル所ノ事或ハ疎忽ニ流レ若シ
 ハ意義ヲ誤ルコトアルモ他院ニ於テ之ヲ矯正シ或ハ偏僻ノ
 議決アル靡ラシメ將ク一院内ニ在テ非常ニ勢力ヲ有シ跋
 扈跳梁スル者アルモ他院ニ於テ之ヲ制抑スルコトヲ得ベシ
 米利堅ノ政學者輩ハ此ニ見ル所ヲアリ之ヲ論セテ曰
 設令民主政ト雖モ通常一二ノ勢力アル人物有テ往

々會議ヲ左右シ自己ノ利益ヲ事トシ又ハ其ノ黨援ヲ
 藉リ以テ自己ノ熱心スル所ノ目的ヲ會議ニ貫キ寡數
 ナル所ノ對敵ヲ壓倒シ或ハ之ヲ排斥セシメ終ニ甚シ
 キ危害ヲ生スルコト立到ルコトアリ然レドモ之ニ反シテ一
 個獨立ノ元老院或ハ上議院ナル者アリ始メテ此等ノ
 弊ヲ矯メ斯ル危害ヲ生スルコトヲ防ジシムト其他ヲホ
 レドモ氏ノ如キハ切ニ二議院設置ノ利益ヲ主張セリ
 (六) 殊ニ元老院或ハ上議院ヲ設ケ眞ノ固有ノ民會ト共ニ
 相對立セシメ置ク所ノ制ハ則チ民主政ノ動搖ニ付テ之カ
 制裁ヲ立ルニ當テ最モ不可缺ノ利益アリトス
 上議院ハ民會勢力ノ專横ヲ防ギ又ハ民會ノ專横ニ由テ生
 スル所ノ動亂ヲ制シ而シテ多數ノ爲メニ壓抑セラル、所

ノ寡衆ノ自由ト權利トヲ保護スル等ノ利益ヲ有セリ
 (ニ) 加旃立憲政體ニ於テハ下ニ述フルカ如キ考察ヲ置カ
 キル可クス若シ一議院ヲ建ルニ止ムルハ君主ハ直接ニ
 議事ニ關繫セ萬一黨派ノ爭論ヲ生セタルハ議員ト共ニ
 躬ク對壘抵敵手ノ一方ニ列セサル能ハサルヘシ之ニ反シ
 テ二議院ヲ設クルハ直接ニ黨派ノ爭事ニ關繫セズシテ
 兩院ノ間ニ立テ之カ宜キヲ制スル猶ホ權衡ヲ把持シテ
 物ヲ處スルカ如キ便アルモノナリ會ニ此等ノ便アルノミ
 ニ非スシテ國家ノ一和ヲ求メシ立君國ノ安全ヲ保テ王威
 ナ損サス立法官ヲ永遠ニ保持シ之カ秩序ヲ紊サハル等ノ
 效アリトス

以上説明スル所ノコトハ國家ノ官吏ニ在テハ最モ理解セ

易キモノナリ而シテ學問上ニ於テハ此外尙ホ二院ヲ置カ
 サル可ラサル要ノ主義ヲ有セリ抑モ開化ノ國ニハ貴族政
 ト民主政ノ間ニ相反對スルモノアリ此反對ハ自ラ多額
 ト良質ノ反對ナル性質ヲ帶ルモノナリ○中古ニ於テハ代
 議ノ重力ハ貴族政ニ傾ムキ近代ニ至テハ殊ニ所謂民會ニ
 歸セリ民會ニ在テハ獨リ多數ニ依ルトノニ謂フヘカラサ
 ルモ概ムテ多數ノ黨論ニ依テ決定スルモノナリ今之ヲ代
 議士法ニノニ據テ考ルハ必ラ完全ノモノト謂フ可ラ
 ス其不是ナル所ヲ問ハス專ラ其是ナル所ヨリ論下スルモ
 要スルニ多額ノミノ利益ヲ計ルモノト謂フ可キノミ○之
 ニ反シテ良質ハ必ラ其性質ヲ多額ニ異ニスルモノナリ
 テ常ニ其數寡ナキモノナリ然レハ國家ノ昌盛人民ノ安寧

ヲ討ル者ハ概ムテ此其質部ノ力ニ在リ而シテ其質ハ多數
 ノ不充分ヲ補ヒ且ツ之カ定度ヲ保ツノ利益アルモ單ニ一
 議院ノニシ置クハ此等ノ利益ヲ顯トサルニ至ルヘシ是
 故ニ國家ノ全民ヨリ成立ツヘキ所ノ主義ニ合ハサルモノ
 ヲリ○然ラハ則チ之ヲ如何スレハ可ナルヘキ乎云々別ニ
 一議院ヲ設ケ以テ之カ弊ヲ矯ムヘキノミ如此コシテ多數
 即チ人民ノ代議士ト少數即チ拔擢ノ賢士トチ王ノ左右ニ
 置クハ則チ政治其宜ヲ得又能ク人民機關ニ應スルモノ
 ナイトス而シテ所謂ノ多數即チ人民代議士ハ第三第四ノ種
 族ヨリ置キ之ヲ下議院トナシ少數即チ拔擢シタル者ハ第
 二種族ヨリ置キ之ヲ上議院ト爲スヘシ

第五 歐洲陸地ノ憲法ハ概ムテ英國ノ編制ニ模倣シタル

モノナリ英ノ編制ハ單ニ一院ノ議決ニ止ムルコトナク一院
 ニ議決シタルモノト雖モ他院ニ於テ更ニ議定スルモノト
 ナ最初一院ニテ議決スル者ト更ニ他院ニ移シテ之ヲ議定
 スルハ則チ或ヒハ國家ノ一致ヲ破ルガ如キ看テナスヘ
 シト雖モ其實決シテ否ラス畢竟第一院ニテ之ヲ審査シ第
 二院ニテ確定スルト謂フヘキノミ

英ニ於テハ憲法上典典アレハ則チ巴理門議政ノ精神ニ於
 テ之ヲ改良スルコトアリ因テ皮相ノ看ク下スルハ一院ニ於
 テ改良ノ草接ク議定シ更ニ二議院ニ在テハ之ニ反對シテ
 不相容カ如ク視ツルナルヘケレト仔細ニ實際上ノ看察ヲ
 下スルハ敢テ提着スル所ノ害ヲ視サルナリ

○上議院ハ下議院ニ對シ之カ修正ヲ爲スモノナリ然リト

雖下議院ニ望ム所ノコトト雖上院ハ之ヲ拒斥スルノ
 權アリ然ルニ陸地諸國ニ於テ多クハ上下兩院ノ間詰ハタ
 シキ反動ヲ起スモ之ヲ制止スル能ハス之カ爲メニ儘々國
 家ノ危害ヲ釀成スルコトアリ例ヘハ一車ノ前後ニ兩馬ヲ繫
 クカ如ク自ラ相背馳セシトシテ進退ノ自由ヲ得サルナキ
 ナ保テカクキニ同シ是憲法ノ不完全ナルニ職トシ之レ由
 ルノミ

此等ノ事ハ國家ノ本体ニ背戻スルモノト謂フヘシ抑モ國
 家ノ本体トハ國家ノ思想ヲ一致セシメ充分ニ其成果ヲ得
 セシムルニ在テ全体ノ内部相背馳セテ儘々方嚮ヲ異ニシ
 區々一致セサルカ如キハ決シテ容テ可ラサル所ナリトス
 蓋シ憲法ノ完全ニシテ如此誤謬ヲ避ケ兩院ノ一致ヲ求メ

ンコト慮カリタル所ノ國ハ誠トニ鮮ナシト謂フヘシ
 例ヘハキリシニ國千八百三十一年憲法第百卅一章ニ
 曰ク一ノ草按ニ付テ兩院ノ議一致セサルハハ協議ノ
 上互ヒニ其異議ヲ主張スル所ノ議員中ヨリ特別議員
 ナ撰ミ之ヲシテ合議決定セシムヘシ同第九十二章ニ
 曰ク兩院議ノ合ハサルニ由リテ設ケタル特別會議中
 議員ノ三分二已上其草按ヲ廢棄スヘシト發議スルハ
 ハ之ヲ廢棄スルヲ得ルモノトス○瑞西同盟憲法第八
 十章ニ曰ク兩院ハ各別ニ議スルモノトス而シテ兩院
 ノ議合ハスルヲ爭論ヲ生スルハ兩院ヨリ特撰スル
 所ノ委員會議ヲ開キ下議院長之カ會頭トナリ多數說
 ヲ決定スルモノトス

民ト國民ノ名ヲ以テスル所ノ者ノ間其利益ヲ圖ルニ
 至テ互ヒニ其思想ヲ隔ヘテ相反ルコトナキモノヲ稱シ
 テ真正ノ代議法（愚按スルニ如キモノヲ云フ元老）ト云フ而テ國民
 ニ代ツテ議決スルモノヲ撰舉スルノ制ヲ幹裁ノ代議
 法（愚按スルニ云フ）ト云フ然リ而テ真正ノ代議法ハ時
 有テ幹裁ノ代議法ヨリモ其宜ヲ得ルコトアリ是他ナシ
 幹裁ノ代議法ニ依レハ人民ノ撰舉代議士其人ヲ誤マ
 ルコトアルカ故ニ罕ニハ人民ノ所思ト代議人ヲ撓益ヲ
 計議スル所トノ實際ニ於テ雙方ノ間或ヒハ其目的ヲ
 異ニスルコトアルハナリ然リト雖モ彼ノ真正代議法ノ
 ニモテ幹裁代議法ナクシハ則チ到底其代議法ヲシテ
 永遠ニ保續スルコト能ハサルモノナリト

抑モ此下議院ナルモノハ民主代議政主義ヲ施ヤンカ爲ナ
 リ而シテ近代各國共ニ漸々此性質ヲ帯ヒサルモノ殆ント
 ナキカ如シ

第一 撰舉權アル國士ハ各其性質ノ異ナルト百ルトニ圖
 セス之ヲ撰舉區ニ分別シ而シテ各撰舉區ニテハ其区内ノ
 人頭數ニ從テ代議士ノ員數ヲ定ムルヲ以テ普通トナシ多
 數ノ撰舉スル所ニ歸シ少數ハ其効ヲ奏ヒサルモノナリ此
 趣向ハ單ニ算當ノ權衡ニ因ルモノコシテ諸民ハ同權ナリ
 トスル所ノ民主政ノ意ニ基クモノナリ然リト雖モ國家ニ
 機關ナリトスル所ノ趣旨ニ對シテハ頗ル背反スルモノト
 謂ハサルヲ得ニ而シテ如斯不充分ノ趣向ニ憑テ人民代議
 法ノ完全ナルコト真正ナルコトヲ保任セントスルハ豈ニ亦

難カラスヤ社會ノ内ニハ種々ノ詳クナシ或ハ商業農業或ハ製造職工其他學術教育等ノ各部分互ヒニ其裨益ヲ異ニスルモノアリ然ルニ一般算當ノ制ニ據ルルハ此等ノ者ヲ同列シテ一モ漏ス所ナク之ヲ代議士ノ内ニ見ルコトハ恐クシハ期ニ懸カラシテ令見ルコトアリトスルモ偶然ナルニ過キサルノミ是即チ撰舉方法ノ基ヲ各々其裨益ヲ異ニスル所ニ取ラサルヲ以テ其部分ニ應ジテ各別ニ裨益ヲ得ンコトヲ望ムモ能ハサル所以ナリ

此普通撰舉方法ハ國士ヲ平等ニ區分シ之レカ階級ヲ存スルコトナシ直チニ國士中ヨリ撰出シテ代議士トシムルモノニシテ例ヘハ下等虫類ノ其筋絡ヲ平等ニ連接スルカ如ク上等動物ノ一休中數様ノ脈絡筋節ヲ具ヘ各其働作ヲ異

コシテ之レカ機關チ有スル所ノモノト比較スベカラス乃チ各撰舉區内ノ少數部分ナルモノハ措テ顧ミサル方法ニシテ設シ此少數ヲ合スルハ全國民ノ多數トナルヘキノ理モ亦之ヲ顧ミサルモノトス

此方法ニテハ其他最ニ才能チ有シテ其任ニ適スル所ノ人物ヲ撰出スルニモ其宜チ得タルモノト謂フベカラス畢竟黨派ノ爲メニ供スルノ方法ニシテ黨派ノ意欲ヲ達スルニ足レルノミ或ハ人民機關及各箇ノ利益ヲ代議スルノ本旨ヲ失ヒ其會議ハ專ラ政黨チ主張シ黨論ニ因リテ政界ノ方嚮ヲ左右スル誤謬ニ歸シ人民チ永遠ニ保安スル所ノ實益ニ至ラハ置テ問ハサルノ弊チ生シタルコトアリ今日猶ホ此弊ヲ脱スル能ハサルナリ

代議士ヲ撰舉スルニ機關ノ割合ヲ保テ少數モ亦若干與スルヲ得ルノ良法ヲ採用シ其方法ヲ憲法上ニ載スルモノハ古往今來僅カニ丁抹國英國ノ二ヶ國アルノミ

丁抹國ニ於テハ千八百五十五年ニ方ツテ既ニ算術家タルニコストニ官アンソレレト氏撰舉制限法ノ考案ヲ出シ其後千八百六十六年ノ法律ニ之ヲ採ケタリ其方法ハ一撰舉區内ニ於テ少ナクモ撰舉人三名ニ下ラサルモノトシ各區撰舉人ハ内二名ノミヲ撰舉シ殘ル壹名ハ少數ヨリ置カセムルノ制タリ

大武列頓國ニ於テハ千八百六十七年八月十五日ノ改革令(カール、カイ、ノン氏ノ發論)ニ由テ方法ヲ定メ市府ノ撰舉區ニ於テハ撰舉人三名ヲ限り撰舉人ノ撰舉スル所ノモノハ

内二名ヲ限リトシ殘リ壹名ハ官撰ニ任スルモノトス此方法ハ專制タルコトヲ免カレシレル其利益トスル所ハ斯區内多數ノ支配中モ少數ノ撰定ヲ顯ミルニ力ヲアルモノト謂フヘシ

其ニ算當上ニ於テ定ムル所ノ撰舉區方法ハ國內縣ニ町村ノ機關ニ從ツテ撰舉區ヲ分別スルノ便レルニ如ス但シ此方法ニ據ルルハ營生利益ノ相類似シタルモノ各相一致シテ或ヒハ英國及獨逸數國ノ如ク市府ト邑村區ノ間ニ甚シキ距離ヲ生スルノ恐レアレ共索ヨリ此距離ノ一事ノ如キハ敢テ重大ナル障礙ニ非ストス

第二 撰舉法ニ直接撰舉ト間接撰舉ノ差アリ直接撰舉トハ被撰者ヲ直接ニ一般固有撰舉人ヨリ撰出スルヲ云フ間

接撰舉トハ固有撰舉人ヨリ一應同立撰舉者ヲ撰ニ此同立撰舉者ヨリ被撰者ヲ撰出スルヲ云フ○將ヤニ直接撰舉ノ益アル所ヲ述ヘントス

(イ) 直接撰舉ハ撰舉人ト被撰人ノ間其信任直接ニ相通スルノ益アリ間接撰舉ニテハ代議士即チ被撰人ト同立撰舉人トニ在テハ信任直接ニ相通スルト雖モ面レモ固有撰舉人ノ信任ハ往々代議士之チ有セザルヲアリ

(ロ) 撰舉ノ際撰舉人ノ注目スル所ト裨益トスル所ハ之ヲ間接撰舉法ヨリ較著ナルヲ見ルヘシ面セテ間接撰舉法ハ却ツテ其注目スル所ト裨益トスル所ヲ微フルヲアリ然レ共間接撰舉法モ亦タ益ナシトモス今其益アル所ヲ左ニ示スヘシ

(イ) 撰舉區ノ境域甚ハテ汎博ニ涉ルヤハ固有撰舉人チシテ一所ニ集合スルヲ極メテ容易ナラス然リト雖モ其便宜ニ任セテ區内チ數多ニ小分スルヤハ撰舉ノ効果ヲ得ルヲ顯シ如斯場合ニ於テハ間接撰舉法ヲ以テ其宜ヲ得ルモノトス

(ロ) 又撰舉權ノ區域降リテ最下等人民ニ及ヒ撰舉人ノ員數亘多ク含有スルハ間立撰舉人アレハ其人品ヲ觀察シ適任ニシテ且ツ一層善良ノ被撰人ヲ見出スヲ得ヘシ○若夫如斯順序ノ規矩ヲ踐マズシテ特リ直接撰舉法ニ依ルハ區内中ノ巨豪自ラ權力ヲ占メ一ノ撰舉會ヲ設テ輒チ不順序ナル仕方ヲ以テ間立撰舉人ノ職務ニ代ヘルノ弊ニ流レ易キモノナリ實地ノ研究ニ據テ考ルニ直接撰舉ハ先ツ

拔許ナル求官生即チ干職カネシヨク(貴族政)ノ便チ與ヘ間立撰舉ハ先
 ヲ國民ノ中等社會ノ人々ニ其便チ附スルモノナリ
 將又直接撰舉法ニテハ第一ニ撰舉人ノ數實ニ夥多ニシテ
 例ヘハ固有撰舉人十名ニ間立撰舉人壹名ヲ定ムルヲ得
 ンシ

英國、北亞米利加、現今亦佛國、獨逸國、白耳義國、伊太利國、及ヒ
 瑞百國大半ノ諸州、ニハ直接撰舉法ヲ用ヒ西班牙、李湯西、バ
 セル、及獨逸聯邦過半ノ國々ハ間接撰舉ヲ行ナヘリ

撰舉權

第三 撰舉人ノ性質ヲ殊別ス○撰舉權

(一) 國土法(附錄ニ掲ク)ハ殊ニ國土ノ撰舉權上ニ關係チ有
 シタル法ナリ抑モ代議憲法ハ國民テシテ各其信任スル所
 ノ男子ヲ撰舉シテ代議士トナシ立法及ヒ行政、統計ノ事ニ

就テ政治ニ干與スルコト明示セリ而テ國土タル分限チ有
 セサルモノハ固ヨリ撰舉權ニ與カルコトシ國土タル分限
 チ有スルモノハ規則ニ於テ之チ有スルモノトス

撰舉權ハ一ツモ天然法ニ基クキタルモノニ非ス唯々國家
 ノ趣向ニ基クモノナレハ撰舉人タル者其代議士ヲ撰舉ス
 ルニ方テハ品行方正ニシテ且ツ才幹智能ヲ兼備スル者ヲ
 注意シ其撰舉スル所ノ目的ニ對シテ之レカ保任アルモノ
 トス故ニ種々ノ憲法ニ於テ左ノ區別チナセリ

(甲)年輩ノ別 古羅馬セルビヤ國憲法ニ於テハ老年ノ撰舉
 人ハ若年ノ撰舉人ヨリハ其權力ヲ強フシ老年者ノ組ハ若
 年者ノ組ニ比スルニ其數寡ナリト雖モ其撰舉ノ員數ニ至
 テハ之ヲ等ツセリ其故如何トナレハ老年者ノ若實ニシテ

練磨ナルハ若年者ノ經驗ニ乏ク過激事ヲ處セシトテ企望
スル所ニ優レルヲ以テナリ。○近代ニ至テ獨リナレオシ
第一世積此制ヲ設ケテレ共其他ノ各國ハ其憲法ニ於テ如
斯老宿者ヲ尊フノ制ヲ設ケサルニ由リ若男子ノ國家ニ關
係ヲ有スルヲ甚ク旺盛ナルニ至レリ

(乙)家産ヲ以テ撰舉スルノ法ニ至テハ今日猶未ク憲法上之
ヲ用ユルモノ多シ但シ其制種々異同アリ左ニ其制ノ大要
ヲ殊別セン

(其一)英國ノ古制(曩時ハ北亞各國ニ於テモ亦之ヲ認可セ
レトアリシカ今日ニ至テ漸ク之ヲ廢棄ニ附セリ)ハ中古ノ
制ニ基ヒテ其撰舉權ハ地主ニ限り之ヲ有スルモノトス。○
「ブルク」氏雷舌ク鳴ラシテ大ヒニ英國民政主張者ヲ感動セ

ブルクアリ其説ニ曰ク「一國代議法ハ必スヤ其國ノ智者
ト財產者トヲ以テ其國ノ所有物ヲ代議スルモノナリ然レ
ト雖モ智能ハ獨立自營ノ力アリ且ツ有爲ノ者タルノ主義
ニシテ財產ハ怠惰且ツ氣力ノモノタルカ故ニ代議ノ方
非常ニ之カ勢力ヲ有セシムルニ非サレハ決シテ智能ノ爲
メニ壓伏セツルヲ以テ免カル、能ハサル所ナクシト」
英國諸州ニ於テハ中古幕下院ノ撰舉權ヲ有スル分限ハ一
ケ年少クモ四十セルリシテ「ノ」收納ヲ得ル地主ニ限り此權
ヲ有セリ千八百三十二年ノ改革令ニ依テ六十年以上ノ年
限アル借地者及其他ノ地主ニシテ其地面ヨリ少クモ十磅
ノ純益ヲ得ルモノハ愈テ撰舉權ヲ有シ年限少キ借地者
ハ其借地面ヨリ五十磅以上ノ利益ヲ得ルモノニ限り之ヲ

有スルモノトセリ。○市府中曩時撰舉權ヲ得ルモノ、分限ニ數權ノ差別アリ。レガ千八百三十二年ノ改革令ニ依テ一家、一庫、或ハ一店ヲ有セテ十磅ノ年益アルモノハ悉ク撰舉權ヲ得ルモノトセリ。但シ撰舉人タル分限ヲ有スルモノハ教育稅ヲ拂ハサルヲ得サルモノトナセリ。

改革令以來英國ニ於テハ撰舉人ノ數無慮一千四百万人ノ内大凡八十万人アリ。愛耳蘭國ニ於テハ無慮八百万以上ノ内大約十五万人ノミ全武列頓國ニ於テハ二千六百万人ノ内撰舉人ノ員數百万人以上ニ及ヒ。改革前ノ員數ヨリ多キヲ大約一倍セリ。

其後ノ千八百六十七年新改革令ニ依テ更ニ撰舉權ヲ擴メ各州ニ於テ永續地主(愚按スルニ永代無期ノ借地者モ亦此地主ニ列ス)ニシテ五磅

(十磅ニ代ユル)ノ利純ヲ得ル者年限少キキ地主ハ五十磅ニ代ユルニ十二磅ノ利益ヲ得ル者市府及邑村ハ叙益納稅ノ定額ナシ又自宅ト借宅トニ論ナシ唯教育稅ヲノミ拂フ者ト雖モ一家ノ主タル者ハ愈々撰舉權ヲ有シ。千八百六十八年ニ當テハ撰舉人ノ數二百二十三万五千二百五十六名ノ多キニ昇レリ之ヲ比較スルニ在來ノ人數ニ一倍ヲ加ヘ

(其二) 佛國撰舉ノ制ハ甚シキ動搖ヲナシ。千七百九十一年

憲法第二章ニ於テ一年ノ稅額ニ付雇役三日間ノ賃銀ヲ拂

フ者マテハ撰舉權ヲ得ルモノトシ其後千七百九十三年ノ

憲法(第一章)ニ至テ此制ヲ廢棄シテ普通撰舉法ヲ用ヒタリ

シカ千八百十四年ノ復立憲法(愚按スルニ普テ革命ノ時ニ際シテ鎮覆セツレタレガ

王國憲法ヲ設ケリ故ニ復立憲法ト云フノ時ニハ國民ヲ舉
 ケテ家産ノ有無ニ關セズ唯直税三百フランクヲ擄フ者ハ
 皆ヲ撰舉人タルコトヲ得タリ千八百三十一年ノ法律ニ於テ
 三百フランクヲ減シテ二百フランクトセリ是ニ於テ在來
 ノ數ヲ増加セテ十七万四千人ノ多キニ昇レリ此撰舉法ニ
 於テハ稍々金力政治ヲ脱シタル所アレドモ未ダ全ク之ヲ消
 滅スルニ至ラズ而テ佛國人過多ノ數(愚按スルニ最下等ノ)
 ハ佛國民ノ代議法ニ干與スルコトヲ省カレタリ其後千八百
 四十八年ノ變革ニ依テ全ク金力政治ノ餘風ヲ解脱シテ民
 主政ニ遷轉シ全年十一月四日ノ共和憲法第二十五章ニ曰
 ク凡ソ佛國人ハ總テ納稅者納稅者ニ非サレハ國士權ト政
 權ニ干ルコトヲ得スト否トニ係ラズ悉ク撰舉權ヲ有スベシ

ト買ニ恐怖スヘキノ激進ヲ作セリ○此普通撰舉法タルヤ
 程度漸際ナキモノニシテ乃チナボレオン第三世カ僅少ノ
 年數ヲ經テ愛ニ帝室ノ基礎ヲ建テタル階梯ナリトス然レ
 ニ其後彼ノ普通撰舉法ハ千八百七十年來綿々トシテ今日
 ニ至ルマテ共和政體ノ下ニ維持セリ
 和蘭陀國撰舉法律千八百五十年ニテハ二十フランクノコリ
 百六十フランクノマテノ租稅ヲ納ムル者(アムスデルダム府)
 ニ限リ白耳俄國千八百二十八年ニハ四十フランクヲ限リ
 西班牙國千八百四十六年ハ四百フランクノ抑テ百フランクノ伊
 太利國千八百六十年ハ四十フランクヲ限リ撰舉權
 ナ有スルモノト定メタリ然リト雖此國々ニテモ漸々撰
 舉法ヲ擴充スルニ至レリ

(其三) 歐洲各國内ニハ撰擧權ヲ定ムルニ地所家宅ヲ所有スル者ニ限ルノ制ニ換ユルニ相當ノ租稅ヲ貢納スル者ニ取ルノ法ニ基ケリ但シ其貢納ハ直稅ニ限リ間稅ハ之ヲ省ケテ得ヘシ抑モ此制ノ起因スル所以ヲ考フルニ納稅者ハ必ツス公權利ト義務トヲ有スルモノニシテ其分限相當ノ自治自活力アリ且ツ收稅ノ多寡ヲ定ムルニ當ツテハ其關係ノ及ホス所全ク納稅者コアリトス然リ而シテ一ノ租稅ヲモ叙メサル者ハ其關係ヲ有スル理由ナクシテハ則チ命令不納稅者ノ内ヨリ代議士ヲ擇ハセムルモ其代議士ハ自ラ納稅スルヲナケレバ代議士タルノ効驗ヲ見サレハナキ事漏西國千八百四十九年五月三十日ノ撰擧法律ニ據ルニ總テ直稅ヲ納ムル者ニ限リ撰擧權ヲ有セ一般ニ直稅ヲ納

ハカルモノハ此權ヲ有スルヲ能ハス又法令ニ職業ノ雇工及奴僕ト雖モ直稅ヲ収ムルモノハ僉チ撰擧權ヲ有スルヲ得ヘシ○バイニル國其他獨逸各國ハ過半右ノ法ニ等シク撰擧權ハ納稅者コ限リ之ヲ有セシム但シ諸納稅者コシテ國士タル名譽ヲ保スル者ニ止マルモノト了知スヘシ(其四) 境國千八百四十九年憲法(第四十四章)ニ於テハ村邑及ヒ小市街ノ者ハ少ナクモ五ヤルデシテ直稅ヲ納メ都會ノ者ハ十ヲコリシヨリ二十ヲコリシニ至ルマテノ直稅ヲ納ムル者ニ限レリ

千八百六十一年二月廿六日ノ憲法ニ國會ノ議員ハ國君直轄ノ州會ニテ撰出スヘシ然リト雖モ各州ノ代議士ニ至テハ殆ント其階級ニ應ジテ之ヲ組織スルモノトス(一)耶蘇宗

穀、貨、價(二)大地面ヲ有スル者(三)市府、職業場所、及商工業所(四)其他村邑ヨリ出ス者○大地面ヲ有スル者及市府ハ直税トシ邑村ノ撰舉ハ間税ヲ出スモノナリ然レト雖モ下等級者(愚按スルニ云フ)ニテ一ノ租税ヲモ納メザル者又ハ豊少ノ税ヲ拂フモノハ撰舉權ナキモノトス其後千八百七十三年廢新ノ改革憲法ニ於テ州會下國會ノ關係ヲ解キ魁メテ國家ノ一和ヲ強メソコヲ企圖セリ然レモ間リ撰舉上ニ於テ種々ノ階級ヲ存スルノ一事ニ至ツタハ之ヲ廢棄セサルナリ

(其五) 李滯西國財産階級編制法ハ種々ノ財産ニ固有ノ價額ヲ立テ之ヲ階級ヲ三箇ニ分テ而シテ收税ノ多寡ニ準リテ固有撰舉ヲ三箇ノ階級ニ分配セリ○高等納税者即チ總

税ノ三分一ヲ納ムル者ヨリ出ス所ノ間立撰舉人ノ數ハ中等納税者即チ總税ノ三分一ヲ納ムル者及ヒ下等納税者即チ總税ノ三分一ヲ納ムル者ヨリ出ス所ノ間立撰舉人ニ同クセリ此制ハ其標準ヲ古ヒルビヤ國稅額憲法ニ取ルモノナリト雖モ財産ノ勢力ハ該憲法ニ比スル稍輕キモノトス○此制ノ目的トスル所ハ富貴ノ國士ヲシテ多額ノ爲メニ撰制セラル、所ヲ免カレシメ多額モ亦富貴ノ國士ノ爲メニ課外セラレヤラシメソコヲ要スルニ在リトス

(丙) 到底其國ノ開化ノ度如何ヲ顧ミルニ非ザレハ則チ其本然ノ適當ヲ得ルヲ難シトス開化ニ缺乏スル所ハ即チ所分力ノ缺乏ト謂フベクシムナリ

善ク其國ノ開化如何ヲ顧ミ其國ニ適應スル所ノ新撰舉法

其設タルコト二種ノ方アリ其方左ノ如シ

(1) 撰舉權ハ讀書、筆記シ能ク者ニ限り之ヲ附與セ而シテ
目ニ一丁字ヲ解セサル者ハ之ヲ省ケリ左ニ示レハ何ノ場所
ニ於テ記名撰舉ヲ行フモ毫モ差同ナシ千八百六十年伊太
利國及白耳義國ニ於テ此制ヲ用ヒタリ但シ此制タルヤ一
般教育義務ヲ帶フル法ヲ設クテ大シテ自ラ卒業者ヲ有スル
國々ニテハ其關係甚ク要用ナリト雖モ獨逸國ノ如キハ殆
ソト此制ヲ須要トセサルモノ、如シ

(2) 學部ノ者例ヘハ學校ノ吏員即教員ノ如キハ設令納稅
者ニ非スト雖モ皆テ撰舉權ヲ附與ス白耳義、伊太利國ノ如
キ是ナリ

(丁) 現今民主政ノ行ハル、ニ由リ數國特ニ佛國(千八百四

十八年)瑞百(千八百三十年來)北亞數國(千八百六十年以降)及
ヒ獨逸國(千八百六十七年及千八百七十一年)ヒスマルシ公
ノ意見ニテニ於テ右來ノ制限ヲ解除シ諸國士即チ一國中
ノ丁年者ヲシテ愈チ普通撰舉權ヲ得セシメタリ

(第四) 撰舉ハ秘密ニスヘキ乎公ケニスル乎記名ニスヘキ乎
呼名スル乎若クハ舉手法ニ據ルヘキ乎ノ問題ハ既ニ古來
ヨリ甚クシキ議論ノアリシモノナリ此事ニ就テ羅馬人ノ
法今日ニ至ルマテ甚ク行ハル

而ルニ秘密ト云フハ記名法ニ由リ公ケト云フハ呼名
或ハ舉手ノ多寡ニ由ツテ定ムルヲ通例トスレ共未ダ之ヲ
以テ確乎タル者ト謂フヘカラス抑モ公ケニ呼名スル撰舉
ハ活潑ニシテ男子ノ所爲タル形容ヲ存スルモノ、如クナ

レ其綿密ニシテ且組漏ナキハ秘密ニ記名スルノ愈レルニ
 如カス○公ヤクニ呼名スル方法ニテハ職ヤ町村ノ貴男子
 ハ勿論或ハ時アリテ檀那持ノ者共専ラ關係ヲ有スルノ勢
 ナ成シ小民輩ハ己レノ意見ヲ提出スルコトヲ要セス右ノ人
 々ノ鼻息ヲ窺フテ事ヲ圖リ甚レキニ至テハ會集者共ノ指
 揮ニ服従スルノ弊アリトス○然リト雖モ其他ノ政治百般
 ノ事之ヲ秘密ニ附スルコトナク公ケテ施行スル國ニ在テハ
 撰舉ノ方モ亦之ヲ公ケテ施行シテ可ナリ○之ニ由テ英國
 ノ如キハ撰舉ノ際國士民人到處目ヲ群集ヲナセ一般ニ賞
 賈スル者ヲ彈出シ別ニ固定ノ方法ヲ存セス○英國及ヒ北
 亞米利加ニ於テハ過半呼名法ヲ以テ公ケテ撰
 舉スルモノナリ○佛國ニ於テハ嘗テ千八百四十八年憲法

(二十六章)ニ於テ秘密ノ撰舉法ヲ用ヒタリ○獨逸各國ニ於
 テハ公、私、混用シ被撰者ヲ秘記スル所ノ投票ヲ撰舉場ニ於
 テ公拆スルノ制ナリ然ルニ秘密法ニ由ルルハ撰舉ニ與カ
 ラサル者ノ目前ニ於テ之ヲ行フモノアリ即チ「ハキエル」國
 ノ如キ是ナリ○獨逸國ニ於テ秘密記名ノ撰舉方法ヲ用フ
 ○瑞西國ニ於テハ公、私、ノ兩種ヲ交々モ相用ヒ乃チ目下ノ
 急ニ應ジ一時限リノ人ヲ撰舉スルモノハ公ケ法ヲ用ヒ須要
 コシテ且ツ永續スル者ヲ撰舉スルモノハ秘密法ヲ用フ
 第五 被撰權ヲ得ルニハ左ノ要件ヲ措考スヘシ
 (イ) 撰舉區ヲ狭少ノ區ニ限リ撰舉人ヲシテ其區外ノ者ヲ
 撰舉スルコトナカクセムル事○此定メ方ハ今世紀ノ初期頃
 ニハ憲法上ニ於テ間々採用セラルコトナリト雖モ此方法ヲ

ルヤ爾然今日ノ代議士ハ全國民ノ代理人ニシテ必スヤ各區撰舉人ノ代理者ニ非スト云々ハ語意ニ背馳ニ且ツ撰舉人ニシテ其區内ニ住セヨ所ノ一男子ニ其信任ヲ屬スルヲアルモ之ヲ撰舉スルヲ能ハズルノ弊ナリ

(ロ) 高年ノ者ヲ撰舉スルヲ〇千八百十四年佛國憲法第三十八條ニ於テハ代議士ハ四十歳以上ヲ要シ其後千八百三十年ニ至テ之ヲ三十歳以上ニ下セリ

字爾西國(千八百五十年)ハオユル國(千八百四十八年)及ヒ他獨逸數國ニ於テハ三十歳以上ヲ要シ均國(千八百四十九年)伊國(千八百四十八年)等皆ナ之ニ同シ

〇獨逸國憲法(千八百四十九年)及(千八百七十一年)ニ於テハ撰舉人及被撰舉人共ニ二十五歳以上ニ限リ北亞合衆憲法(千七百八十一年)白耳

蘭國(千八百三十一年)亦同シ

〇英國人ニ在ラハ尙一層幼年ノ者ヲ許セザリ例ヘテ最モ有名ナル英國政學者カト、ヒラト、ラオツクス、ブルケ、カレイ、カフニ、氏ノ如シ是皆ナ二十歳未満ニシテ既ニ巴理門ニ在リ又、ウマ、ガ、ト、ル國政學者、フランツ、ブアク、氏モ亦然リ

〇而ケ一般ニ撰舉人ノ信任ヲ受クル者ハ通常世故ニ熟練スル者ニ限ルヲ以テ幼年ニシテ風ニ撰舉人ノ信任ヲ受クルモノハ實ニ非常ノ才幹ヲ具者ニ非セレハ能ハズルカ故ニ波撰權ニマテ撰舉權ヲ得セザルル輩ニシテ尙高年輩ヲ要セヨ所ノ規則ヲ設ケ

ルハ極メテ獎賞アルモノト謂フベシ

(ハ) 曠昔ノ憲法ニ於テハ往々富有ナル者ヲ要セヨアリ英國(千八百三十七年ノ法律)ニ於テハ千八百五十八年ニ至

ルマテハ州内、リクタルトナ、下議院ノ人員ニ撰ハル、モ
 ノハ町ニ在テハ六百磅ノ純益ヲ得又村邑ニテハ三百磅ノ
 純益ヲ収ムル者ヲ要セリ其後千八百五十八年ノ法律ニ於
 テ斯ル財産ノ要件ハ悉ク之ヲ廢止セ、佛國千八百十四年
 憲法(第三十八章)ニ於テハ代議士タル者ハ少ナクモ直税一
 千、フクソクヲ収ムルモノヲ要シ其後千八百四十八年此要
 件ヲ解キ復ク更ニ之ヲ設クス、ルニル國憲法(千八百十八
 年)ニ於テハ代議士タル以上ハ能ク獨立シテ其費用ヲ自辨
 シ他ノ助費ヲ仰ガザルコトヲ得ルノ財産ヲ有スルモノトセ
 リ而テ千八百四十八年來此制限ヲ廢棄セリ、
 近代ノ憲法ニ於テハ斷然皆テ此要件ヲ廢棄セリ例ニハ瑞
 西國(千八百三十年來)白耳義國(千八百三十一年)李滯西國(千

八百五十年)獨逸國(千八百六十七年)及千八百七十一年)等法
 律ノ如シ抑モ被撰者ノ提出シタル性質ヲ徵スヘキモノハ
 主トシテ撰舉人ノ信任如何ヨアレハ之ヲ求ルコト唯撰舉ノ
 多寡ニ依テ定ムルヲ以テ足レリトス富有財産法ニ基ツク
 ハ國ニヨリ得策ヲ謂フ可カラズ其曠々才能ナル男子ヲ度外
 ニ置ヒテ比々凡庸事ニ補ヒナキ人物ヲ輩出スルニ至ルコ
 知ルヘキナリ
 (二) 又茲ニ代議士ノ旅費及潛在資ハ其自辨ニ任セ委託者
 ニル他ノ人民ハ之ヲ給與セサルノ法アリ是即テ財產法ト
 同様ノ弊ヲ生スルモノナリ何者之レカ爲メニ其旅費ヲ自
 辨スル丈ケン餘資ヲ有シ併セテ首府ニ潛在スルノ費用ヲ
 辨スルノ見込ニナキ者ハ代議士タルノ任ヲ受クルコト能ハ

時トシテハ同一人民ニ於テ款權ノ法ヲ存スルモノアリ獨
 逸各國ノ人民代議士ハ其規則ニ準マテ日給及旅費ヲ受ク
 ルモ獨逸國會ノ人員ニ在テハ反テ各費用ヲ受クルヲ能ハ
 ス瑞西國ニ於テハ否ラス州會ノ人員ハ日給ヲ受クセリ
 屢々アレシメ國會ノ人員ニ至ツテハ手當及旅費ヲ受クルモ
 ノトス英國巴理門ノ人員ハ日給ヲ受クルヲナクシ雖北
 亞米利加會議ニテハ之ニ反シ多額ノ年俸ヲ受クルノ制
 千八百五十二年ナボレオン憲法ニ於テ初メ立法官タル
 者ノ費用ハ之ヲ償給スルヲ制シ制定セリ然レ雖未ダ一年
 未經スシテ其制ヲ改メ更ニ其費用ヲ償給スルヲ定メタ
 リ

抑モ國家裨益上ニヨリ論下スル所ハ人民代議士タル者ハ名
 譽ノ任ニシテ受俸官ニ非スト云ツト雖モ幾週若クハ幾月
 間首府ニ滞在セザルヲ得セシ代議士ニ向テハ相當ノ償給
 ヲ爲セザルヲ得ス之ヲ償給スルハ敬事ニ通曉スル人々
 ニシテ富有ナラサル者アルモ尙且此任ニ採用シ得ル者使
 宜アリトス若シ此事ナクソハ則チ民政普通撰舉法ノ改眞
 ヲ望ムベカラズ却テ之ヲ妨タルニ至ルモノナリト知ルニ
 シ英國ノ如キ自賈シ以テ地方ヲ管理スル所ノ貴族人民ニ
 在テテハ手當ヲ受クザルモ敢テ妨テナシ獨逸國及伊太利
 王國ノ如キ近代ノ國體ニ於テハ其初メ代議士ハ自辦ヲ以
 テ至當ナリト認メシレ終ニハ償與ノ制ヲ以テ代議士ノ
 實ヲ得且ク開化シタル中等社會ノ輩ヲシテ之ニ與カルヲ

得セシムヘキ便宜アリトシ當時ハ各國トモ過半此制ヲ舉
行セリ
(五) 其他國家官吏ハ被擢ノ任ニ膺ルヘキ乎或ハ代議院ニ
擢舉スルヲ省クヘキ乎ノ問題アリ議論紛々各其主張スル
所ヲ異ニセリ
英國ニ於テハ、エニストル官ノ者ハ其國ノ風習トシテ國王
之ニ巴理門ノ人員中ヨリ登用スルモノトス而テ之ニ登用
セラレタル人員ハ巴理門ニ出席スル者ハ、エニストル官ニ
非ズシテ一個代議士ナルニ然リト雖也租稅官、受傳判事
及政府ノ官ニ在ル僧侶ノ如キハ素ヨリ被擢ノ任ニ膺ラセ
ルモノトス
亞米利加合衆國憲法ヲ考ルニ合衆國諸官吏(愚按スルニ中
央政府ノ官吏

フ云) エニストル官ト雖也會議ニ加ハルコトナシ但シ各州
ノ官吏ハ被擢ノ任ニ膺ルコトヲ得ベシ瑞西國モ亦合衆國ノ
制ニ等シク同盟ヲ誓フ所ノ官吏及僧侶ハ擢ハレテ聯邦會
議ニ出ルコトナセト雖也各州ノ官吏ハ擢ハルベシ獨逸國憲
法ニ據ルニ聯邦會ノ人員ノミ之ヲ省クノ制ナリ
李溫西國千八百五十年憲法ニハ官吏ハ之ヲ省クコトナシ
エニストル官ノ者ハ假令擢ハル、コトナシト雖也尙也會
議ニ參ル議事ノ決定ニ與カルコトヲ得ヘキ他獨逸聯邦ハ多
クハ僉ナ此例ニ由ル
佛國千七百九十一年憲法ニハ行政官若クハ裁判官ノ職務
ハ人民代議士ノ位地ト必クス混和スヘキモノニ非ズルコ
トヲ說明セリ其後復立ノ時千八百十四年ヨリ千八百四十八

年ニ至ルニ際シ右兩職務ヲ混和スベキモノナリト改定セ
 リ立法ノ一團ニモ亦(自千八百五十二年至千八百七十年帝
 國官吏撰ハレテ之ヲ加ルヤヲ得唯リ)ニストル及參議ハ
 初期ニハ之ヲ省キレケ后千八百六十九年ニ至リ改テ之
 ヲ加ヘリ

伊太利國憲法(千八百六十年法律)ニハ、ミコストル參議被嚴
 裁判官、省ノ書記官長、陸海軍ノ高官ノ者、學部廳及衛生廳ノ
 委員、大學校教員等ヲ除クノ外受俸ノ國家官吏ハ之ヲ省ケ
 リ其他教導職ニ在ル僧侶及宗教裁判ノ職ニ在ル僧侶ハ之
 ヲ除ク

和蘭及白耳俄國憲法ニハ國家官吏ハ之ヲ除カス
 國家官吏ヲ下議院ニ加フルコトナケレハ則チ最モ事務ニ熟

練シタル人員ヲ省クガ故ニ議院ノ意見及權威ハ甚ハク軟
 弱ニシテ振興セサルヘシ然リト雖モ官吏ノ權威專ク強盛
 ニ傾クヘハ議院ノ議決シタルモノハ縱ガニ政府ニ對シテ
 區々ノ影響ヲ施コスニ過キサルニ至ルヘシ其宜キキテ制
 スルハ撰舉人ノ事業如何ニアルノミ

其他官吏タルモノハ其位地ノ如何ヲ問ハス概シテ議事ニ
 與カラシムヘキモノニ非ストス面ルニ官醫、大學校教員ノ
 如キ教育ノ事務ヲ管スルモノハ其實一ノ私人ニ等シ、裁判
 官ハ其位地ニ於テ不羈獨立ナルヲ以テ共ニ與ニ之ニ參與
 スルノ障礙アルコトナシ唯尤トモ困難ニシテ不都合ナルハ
 一般ノ行政官吏(憲法ニ據テ)ニ國家官吏(指テ)ノ位地ナリ一般ノ
 行政官吏ヲシテ議院ニ與カラシムニ若シ政府ニ抗對シテ反

對論ヲ唱ルルハ政府ノ意見ト威權ヲ傷害スルニ至ルヘシ
然レハ議院ニ在テ勉メテ政府ヲ助ケルコトアルハ又議院
ノ獨立權ヲ危シスルニ至ルヘシ故ニ議院ノ激烈ナルハ
當テハ規則トシテ責任ヲ負ヒ、ミニストルヲ除クノ外ハ一官
吏ヲモ撰舉セザルヲ以テ制ノ得タルモノトス
僧侶ヲ撰舉スルハ寺院ト國家ノ間相和同セテ僧侶國家ニ
柔順ナルルハ之ヲ撰舉スルモ敢テ妨ケナシト雖モ若シ之
カ反動ヲナスノ時ニ應ジテハ代議法ノ意見ト自由ヲ傷害
スルノ恐レアリ殊ニ僧侶ハ羅馬法王或ハ僧正ノ威權ヲ惟
レ奉遵シテ其指揮ヲ受ケルカ如キコトアルハ最モ其傷害
ノ甚シキヲ見シ

第六 補欠員撰舉ノコトハ千七百八十九年佛國民會ニ於テ

其撰舉ノ法律ヲ設ケシ由リ他ノ僅々數國ニ在テ之ヲ行フ
モノアルノミニシテ概ムテ諸國ニ於テハ此方法ヲ建ツル
モノナシ抑モ議員ノ補缺ハ通常之ヲ要スルコト必トセザ
ルコトナルカ故ニ補缺員撰舉ノ事ニ關シテ撰舉人ハ茲ニ其
意ヲ注グコト鮮ナキノミ若夫補缺撰舉ヲ要シ補缺議員ヲ徵
スルコトアレハ乃チ事務ヲ停滯セシムルコトナク速カニ結局
ニ至ラシコトヲ欲スル場合ノミ之ヲ要スルニ過キス之ヲ徵
スルハ代議士ノ退役ヲ氣儘ナラシムルノ弊ニ陷ルヲ以テ
萬止ムヲ得ザルノ場合ニ際シ之ヲ徵スルコトアルモ必スヤ
一ツノ信憑ノミヲ以テ撰舉スベナラス

第七 歐洲陸地ニ在テモ希臘國、バイエル國、李福西國、獨逸
國ノ如キハ英國ノ風ニ倣ヒ代議士ニテ國家官吏ニ登用セ

フル、其ハ更ニ之ヲ改撰ス此場合ニ於テハ撰舉人ノ信否如何ニ因リテ右國家官吏ニ登用セラル、モノヲセテ猶ホ代議士ヲ兼任ナセシムヘキヤ否ヤヲ明言スヘキモノトス第八 議院ノ年期ヲ定メ其期限終ルノ後ヲ更ニ下議院ノ撰舉ヲ行フノ法アリ而テ此年期ニハ全員ヲ改撰シ或ハ其幾部ヲ續任セシムルコトナリ英國下議院ハ「ゲオルグ」王第一世以降七ヶ年期ト定メ其短キ者ハ三ヶ年ノミトセリ北亞米利加代議院ハ二ヶ年期トシ北亞聯邦ハ一ヶ年ヲ限ルモノ多シ字滯西國獨逸國ハ三ヶ年期トシ白耳義ハ四ヶ年「バキエル」國及佛國ハ六ヶ年トセリ

當時ハ總員ヲ改撰スルコトヲ以テ率ムテ例規トセリ然リト雖も一院ノミチ設置スルノ國ニ在テ總員ヲ改撰スルハ害

アリト云フヘシ、何者實際上相繼續シテ後期ニ彌ル所ノ事業ハ議員交代ノ爲メ遂カニ斷絶シテ變態ヲ來シ屢々此ノ如キ制度ニリ雖然彼カ如キ制度ニ轉遷スルノ恐レアレハナリ

第九 其他立憲君主國ニ於テハ國王ハ議院ヲ解散シテ新クニ撰擧セシムルノ權ヲ有シ而テ相當ノ方法ヲ以テ人民ノ意志ヲ檢考シ時アツテハ又立法者中種々ノ部分ヲ以テ互ニ其節奏ヲ調ヘ併セテ政府トノ調子ヲ好合スルヲ至要ナリトス

民主政國(北亞米利加、瑞西、佛蘭西共和國)ニ在テハ之ニ反シテ政府ニ如斯ノ權ヲ附與セズ是レ此權アルニ由テ民權ヲ制限スルモノナリト見做シタルカ故ニ非ス却テ此權ナキ

以テ民權ヲ制限スルモノナリト見做シタルモノナリ抑
 モ共和國ニ在テハ代議院ノ權威素ユリ政府ノ上流ニ位ヒ
 スルモノナルニ依リ政府ニシテ議院ヲ解散スルコトアレハ
 人民ハ代議院ノ高權威ヲ毀傷セラルハナリト思惟シ激シ
 テ政府ノ權威ニ抵抗シテ民權ノ暴張ヲ來タスカ故ヘナリ
 第十 各代議士ヲ徵集シ必スヤ毎事其擧舉人ノ信託如何
 ヲ窺テ事ヲ議セシムルハ敢テ其機關ヲ調和スルモノト謂
 フ可ラス爲メニ人民ノ代議士タルノ本質ヲ失フモノト謂
 フヘキノニ全體代議士タル者ハ議院ニ在ンテ如何様ナル
 コト論シ如何様ナルコト議決スルモ議員其人ノ自由ニ委
 スヘキモノナリ抑モ代議士ノ任ハ全國民ノ代議士ニシテ
 決シテ其擧舉人ノ代理人ニ非サレハナリ

下議院即民撰議院擄成論終

第六款 元老院或ハ上院構成

元老院ト云ヒ上院ト稱スルモノハ民院ノ重複ニ成リタル
モノト大可ラサルノミナラス決シテ民院ト同主義ニ基ク
ベカラザルヲ了解スヘシ○國家ノ機關ハ二箇ノ器ヲ置
ヒテ同權ノ事ヲ作セシムヘカラス蓋シ第一院ハ其真正ナ
ルヲヲ謂ハ、自カラ又民院ニ殊別スル所ノ職務ヲ盡シ、
ルヲ得ス

第一 上院ヲ置クハ民院アリテ民政ヲ代議スルカ如ク又
爰ニ貴族ノ本原ヲ代理シテ以テ國家ノ一和ヲ求メントス
ルハ當然ノ規定ナリ○第一院ハ國王ト國民ノ中間ニ立ツ
所ノモノニシテ而テ其ノ威權ハ國民ヨリ之ヲ受ケルモノ
ニ非ズシテ拔出ノ性質ヲ有シ自ラ威權ヲ存スル所ノ本位

ヲ具ヘタルモノナリ又完全ノ眞實ニシテ決シテ基本ヲ多
額ニ取ラザルモノナレバ則チ初コリ又政權ヲ其身ニ備フ
ル所ノ拔出ノ性質ヲ有セリ是其ノ柱礎ナリ故ニ此院ニ屬
スル者ハ其身分眞ノ貴族ナル乎否クハ特ニ貴族ニ任セラ
レタル者ナルノミ

第二 郡威國ノ組織法ニ依テ考ルニ人民代議士中ニ四
分一ヲ撰出シテ之ヲ第一部トナシ餘ノ四分ノ三ヲ以テ第
二部トナシタル兩院ヲ用ユルト雖モ此方法ノ如キハ未ク
以テ其充分ナルヲ望ム可ラス何トナレハ同等人自ヨリ
撰出シタル四分ノ一ヲ以テ其四分ノ三ニ對シテ一種別異ノ

院(憲法ニ依ルニ)上院(憲法ニ依ルニ)ト云フ即チナキ切要ノ場合ニ際シテ其四分ノ三(憲法ニ依ルニ)ニ對シテ抗對シテ相購立スルヲ得ベカクサレハナ
院ナルニ即チ下ニ抗對シテ相購立スルヲ得ベカクサレハナ

リ但シ兩部ニテ議相協ハヤルルニ際シテハ兩部共合同會
議ヲ爲シ其三分二ノ多數說ヲ以テ決定スルモノナリ
自耳義國元老院ニ於テモ亦人民代議院ノ如ク同一ノ選舉
入ニヨリ撰出スルモノニシテ其基礎ヲ人民代議院ト等フシ
唯其異ナル所ハ代議院ノ人員ニヨリハ高年齢即四十歳以上
ニシテ且ツ一千グルブゾノ租稅高キ收ムル者ニ非サレハ
之ニ列スルコト能ハス加之其在職年限ハ四ヶ年ノモリ以テ
限ラス或ハ八ヶ年間ノ期限ノ者アリ○北亞米利加聯邦ハ
組ホ右ノ組織法ニ同シ然リト雖モ北亞聯邦ニ在テハ上文
ノ主義ニ據ルルハ竟ニ民主政ノ境域ヲ脱シテ更ニ他ノ政
体ニ遷轉セシコトヲ恐レ下院代議士ト元老院議員ノ殊別ヲ
經クシテ上文記載ノ主義ニ據ラザリシナリ

第三 上院ノ構成ニ就テ觀考ヲ求ス所ノ眞實ナル者ハ人
民ト時代ノ異ナルニ隨ツテ變態アルモノナリト雖モ究竟
其人員ハ主トシテ政略者ナルヲ要シ必ラス國家ヲ維持シ
國民ヲ引導スルノ志趣ヲ有セザルヲ得ス而テ其重要トス
ル所ノ事項ハ左ニアルヘシ

(イ) 何ノ國ニ論ナク英國ノ如ク世襲貴族ニシテ勢力ノ鞏
固ナルコトハ尤モ之ヲ顯ニサレテ得ス○而テ如斯世襲貴族
ハ則チ英國上院ノ實核ヲ成スモノニシテ殊ニ歷史上ノ尊
崇ヲ有シ且ツ時勢ノ變遷改革ノ際ニ於テ權手トシテ其基
礎ヲ動スコトナシ

今日ニ至リ貴族ナル者ハ人民ヨリ納ムル所チ財產トシ其
財產ニ憑テ榮華ノ活計ヲ營ムモノナレハ一種族トナリ國

民ト隔絶シテ之ニ抵對スルコトナク所謂山ト平地ニ於ケル
 カ如キ關係ヲ爲シ互ニ相連結シテ其進取ヲ計ラザルヲ得
 ス獨逸國ニ於テハ尙ホ如斯貴族ノ使用スベキ基本アリト
 雖モ本原貴族ノ跡報ハ今日再ヒ其舊ニ復スルコトヲ得テ國
 家ニ對スルノ威勢ヲ享有セリ然レ共此舊ニ復スルコトヲ得
 シハ決シテ平常ノ時ニ於テセシモノニ非キルナリ
 (サ) 當初世襲貴族ハ通例有地貴族ヲモ含有シタルモノナ
 リヤト雖モ近代ニ至ツテハ有地貴族ノ外ハ間々之ヲ排斥
 セリ后チ又有地貴族ノ區域ヲ擴張シテ財產貴族トモリ是
 シ等ノ事ハ國ノ性質及ヒ活計如何ニ關シテ其輕重ヲ生ス
 ルモノトス乃チ貿易ノ盛ナル國ニ在テハ其重ノスル所ハ
 動産不動産ノ差ナセト雖モ耕作ノ盛ナル國ニ於テハ不動

産ヲ重ノスルコト殊ニ甚シ○守舊ノ意ヲ以テ之ヲ考ヘシム
 ルトハ常ニ大地ヲ有セテ殊ニ世襲スルモノ最モ鞏固ナル
 柱礎ノ一ニ居ル○親屬中更ニ財産分配ノ故障ヲ唱ルノ權
 チ解キ專ク其財産ヲ一手中ニ掌握セシメシガ爲メニ設ク
 ル所ノ世襲法ニ據リ彼族ノ第一院議員ヲ設クテ其權威ヲ
 強クシ其位地ヲ固ニスルモノアリ即チ英國ノ嫡子法或ハ
 獨逸ノ親屬建設法ノ如シ
 然リト雖モ大地所有ハ此世襲法ニ憑クオシテ又今日ノ經
 濟上尤トモ善長トスル所ノ自由ノ所有物トナシテ第一院
 ノ議員ニ列スルコトヲ得ルモノナリ故ニ現時ノ憲法ハ上院
 ノ代議員ハ概シテ大地所有人ニ限ルモノ多シ今日ニ至テ
 ハ貴族ノリツタル地ヲ有スル者ト國土ノリツタル地ヲ有

スル者トノ間其差別アルヲナシ故ニ境國憲法ニ於テ千八百六十一年來右ノ別ヲ廢センコトハ當然ノコトナリトス

(ハ) 動産不動産ニ論ナシ概ムテ豪富ヨリ代理スルコト然ルニ唯豪富ニシテ更ニ國益上ノ勤勞功勳ヲ顯ハシタルニ因リ貴族ニ補セラル、者ニ非レハ眞ニ貴族タルノ性質アリト謂フベカラス唯多額中ニ於テ拔群タルノミ決シテ眞實ニ就テ拔出シタルモノニ非ス乃チ如斯ノ輩ハ徒ニ人民ノ膏血ヲ絞り虛華ヲ以テ閭里ニ誇揚スル者ト謂ハズノミ然リト雖ヒウチナシヒ及獨逸ハ「ゾゼス・グット」ノ歴史ヲ按スルニ巨商家ノ爲メニ建テタル貴族アリ而テ當時ノ情態ヲ見ルニ巨商家大製造者及銀行者ニシテ其財産ノ勢力ニ由テ拔群ナルノミナラス往々政事上ニ遠譽ヲ持シ又國民及本

國ニ忠愛ナルニ由テ拔群ナル者アリ故ニ大有地ノ者ト共ニ之ヲ上院ニ列セシムヘキ基礎ヲ設ケルハ現今ノ時世ニ適應スル所ノ補缺改良ノ法ナリトス

(ニ) 羅馬共和國ノ元老院ハ主トシテ國家ノ爵位ヲ有シ及官職ニ居ル所ノ貴族ヨリナルモノニシテ或ハ上院ノ形ヲ帶ヒタル所アリ英國ニ於テハ當初ローヤル^(貴族)ハ直チニ公辦ノ官吏ニ任スルコト多シ上院ニ議決權アル所ノ十二名ノ上等裁判官ヲ加入セシムル等ノ如キハ即チ此類ナリ○西班牙國ニ於テハ千八百四十五年ニ憲法ヲ改訂シテ無給官タル「コルテス」^{民院}ノ議長及議員及ヒ國家高官ニシテ位階ヲ有スル者即チ「コストル」參議使節最高裁判所ノ長官並ニ陪審官ハ等シク富有ノ貴族ト共ニ元老院ノ人員トスルヲ

以テ至當ナリトセリ千八百五十二年「ボレオ」ノ憲法ニ於テハ元帥及水師提督ハ君敎團羅馬ノ僧侶ト併セテ元老院ノ議官トセリ

(ホ) 貴僧侶殊ニ卑渺ノ如キ者ハ之ヲ第一院ノ人員トスルヲ往々アリ何者教會ノ高位階ヲ有スル者ハ國家ニ於テ精神上ノ大威權ヲ握リ又人民ニ對シテモ概ムテ大威權ヲ具ルモノナルカ故ナリ英國上院ニ於テハ英國卑渺モ亦之ヲ加ヘリ但シ備ニ國教會ノ者ニ限ルモノトシ而シテ「カトリキ」宗ノ者ハ之ヲ除ケリ千八百六十一年英國憲法ニ於テモ亦等シク大卑渺及卑渺ヲシテ貴族院ニ登シテ議決セシム其他獨逸各國ノ憲法ニ於テハ「カトリキ」宗ノ卑渺ト共ニ「プロテスタント」宗ノ者ヲモ併加スルモノ多シ然リ

ト雖ヒ是等ノ僧侶ヲシテ斯ク貴重ノ地位ヲ占メシムル者ハ固ヨリ國家ノ法理トシ名譽トスル所ハ僧侶ノ別ナク同シク之ヲ遵奉セルモノナルヲ言テ待サルナリ

(ヘ) 學術モ亦精神上拔出ノ勢力アルモノナレハ則チ國家ニ關スルノ學術アル者ハ其地位ヲ國民貴族ノ中ニ占ムルヲ事理當然ノ法ナリ

(ト) 右數項ノ外霜ホ一言スヘキ者アリ夫上院ニ撰舉スルハ所謂國家ト國民ノ爲メニ大勤勞ヲ顯ハシタル男子ヲ賞スルノ謂ニシテ直チニ其人ヲシテ有功貴族タルノ地位ヲ占メ精神上ニ道德ニ勢力ヲ備ヘ且チ國民ニ對シテ甚ク權カヲ有スルノ盛事ナリ

第四 左ニ述フル所ノ條義ハ必ラスモ純然タル眞實ヲ

辨知シ且ツ之ヲ羅致スルニ極要ノ事ナリト云フベカラス
 (愚按スルニ但ク參觀ニ)
 (便スルノミヲ謂ナラズ)

(イ) 撰舉ナルモノハ下院ニ於テハ素ヨリ無ル可ラスト
 此院ニ於テハ必ラスシモ使用スベキノ事ニ非ス是他ナ
 シ貴族ノ良質ナルモノハ多額ヨリ出フルニ非レハ撰舉テ
 談クスシテ初メヨリ良質ヲ具シ自ラ出院スヘキモノナレ
 ハナリ然ルニ千八百三十八年來葡萄牙國憲法ニ元老院ハ
 必ス撰舉法ニ由ルモノト制定セシハ前ニ謂フ所ノ旨意ヲ
 試マルモノナリ

唯撰舉人自己ニ在ツテ大有地者、大職業者及大學校會員等
 ノ如シ其身分既ニ貴族タルノ性質ニ於テ拔出シタルモノ
 ナルハノミ上院ノ人員ハ撰舉ニ由テ之ヲ求ムルモノ可ナリ

(ロ) 世襲法ハ國民世襲貴族ノ現存ヲ永遠ニ維持スルノ法
 タリ例ヘハ英國ノ「ロールド」ノ如ク獨逸國ノ「ブリンツ」及「ス
 タンブンス」ヘルニ於ケルカ如キ皆然リ

(ハ) 英國ニ於テハ世襲貴族ニ缺員アルハ之ヲ補ハシカ
 爲メニ國王命ヲ下シテ之ニ任セシムル者アリ佛國ニハ千
 八百三十年及千八百五十二年ノ制ニ由リ終身貴族ノ法ニ
 設ケタリ李國ニテハ千八百五十四年十月十二日ノ布令ニ
 據ルニ國王ハ貴族領(愚按スルニ州)及大市府ヨリ薦舉シタ
 ル人ヲ命シテ貴族トスルノ制トセリ○千八百六十一年埃
 國原律ニ依ルニ國家或ハ教會學事技術上等ニ功績ヲ顯ハ
 シタル者ハ國王之ヲ賞シテ貴族タラシム是即テ其人ヲシテ
 國民拔出ノ性質ナルノ名譽ヲ得セシメントノ義ニ出ルモ

ノナルカ故ニ之ヲ世襲ノモノトシ若クハ終身ノモノトス
ルモノアリ然リト雖モ元老院ノ全職ニ至テハ國王ノ權力
ト思惑ニ歸スルヲ聽サス何トナレハ元老議官ハ國王ト
國民ノ間ニ立テ其職ヲ盡スモノナレハナリ

(二) 中古貴族元老院ノ議員中ニ於テ選舉法ヲ施行セヨ
アリ但シ其方法ニ至テハ一ツニシテ足ラス而テ千七百九
十九年及千八百零二年ノナレレオン憲法ニモ此法ヲ用ヒ
タリ

(三) 或位階ノ者或官職ニ在ル者ヲ限リ之ニ莅マシムルノ
法アリ古羅馬ノ制ニ於テ殊ニ此制ヲ用ヒタリ帝國ニ於テ
ハ地方ノ四大官吏ヲ貴族院ニ坐セシメタリ
上院カシテ其尊崇ヲ得セシメシヨク要セハ種々ノ方法ヲ

以テ互ニ之ニ結付シ互ニ之ヲ使用スルヲ以テ適當ナリ
トス

第五 其制度ノ本質ニ於テハ議員或ハ貴族タルノ榮位ヲ
シテ連綿トシテ永ク絶ヘサラシムヘキヲ須要ナリトス
北亞聯邦及白耳義ノ如キ元老院議員ヲ選舉スルノ國ニ於
テ民院ト比較スルニ通例其一陪若クハ三陪ノ年限ヲ立テ
タリ例ヘハ民院ニテハ二ケ年或ハ三ケ年ナルガ此方ニテ
ハ八ケ年トセリ

其制度ノ大主義ハ職トシテ眞實タルノ性質ヲ有スル丈ニ
承續スルヲ務ムルニ在リ而テ羅馬ニ在テハ其人員ノ無
用腐陳ニ屬セサランヲ慮リ殊ニ視察官ヲ用ヒタリ○元
老院名簿記録ヲ改ムルハ即チ精善ニシテ其人ヲ得シヨク

要スルカ爲ナリ而シテ其名簿記録ヲ改ムルノコトタルヤ制度ノ時代ニ後レテ其委靡軟弱ニ流レシコトヲ防キ國民代議院トノ權衡ヲ得シコトヲ要シ其流弊ヲ改其セシカ爲メナリトス

第六 聯邦ノ元老院若クハ聯邦議院ニ在ケルハ全ク其性質ヲ殊異ニス○國民會ニ對スル國民貴族ナルモノナシ此邦ニハ同盟ノ各邦ヲ連鎖シテ各政府ヨリ出ス所ノ代議人ヲ一總ニ囊括シ之ヲ第一院トシ而テ普通ノ國民代議院ハ第二院トセリ北亞聯邦元老院及瑞西ノ種族院ハ即チ此類ナリ各聯邦ニテ其國ノ立法官ヨリ撰拔シタル代議士每二名ヲ右ノ兩院ニ出シテ代議セシムルノ法アリ獨逸聯邦議院ノ如キ是ナリ而テ此聯邦議院ハ先ツ同盟各國政府ヲ合併

シ猶ホ其國々ノ使節ヲ合集シタル性質ヲ有シテ眞ノ代議政体ヲナセリ然リト雖モ其職務ニ至ラハ立法ノコトニ與カルモノナリ

明治十三年四月廿六日板權免許
明治十三年五月廿五日出版

定價全四拾錢

譯者

山口縣士族

石津可輔

東京橋區元數寄屋町
壹丁目二番地寄留

出版人

岡山縣士族

西洋平

東京京橋區南鍋町
壹丁目五番地

發兌

文會舍

東京京橋區南鍋町
壹丁目五番地

賣

東京日本橋通、二丁目

北島茂兵衛

同 通、二丁目

稻田佐兵衛

同 芝三島町

山中市兵衛

同 小石川大門町

青山清吉

同 通、新石町

福田仙藏

同 日本橋通、三丁目

丸屋善七

同 銀座四丁目

博間社

同 尾張町一丁目

共同社

同 南傳馬町

有隣堂

同 日本橋通、三丁目

小林新兵衛

同 通油町

水野慶次郎

捌

書

同 馬喰町三丁目

石川治兵衛

同 三丁目

荒川藤兵衛

同 大傳馬町三丁目

東生龜次郎

同 横山町二丁目

内田彌兵衛

甲府常盤町

内藤傳右衛門

大坂南久寶寺町

前川善兵衛

同 必登橋通

松村九兵衛

西京宮小路三條下

遠藤平左衛門

同 寺町通、松原上

今井七郎兵衛

信前岡山山車中出下

弘文北舍

長州紙

松原喜兵衛

淡路洲本

同

野州御木

羽前山形

越後長岡

土州高知

愛知名古屋

信州松本

讃岐丸龜

福浦文藏

福岡虎次郎

山中八郎

五十嵐太右衛門

日黒十郎

澤田駒吉

片野東四郎

竹内鎮次郎

市原金三郎

5529

1500

